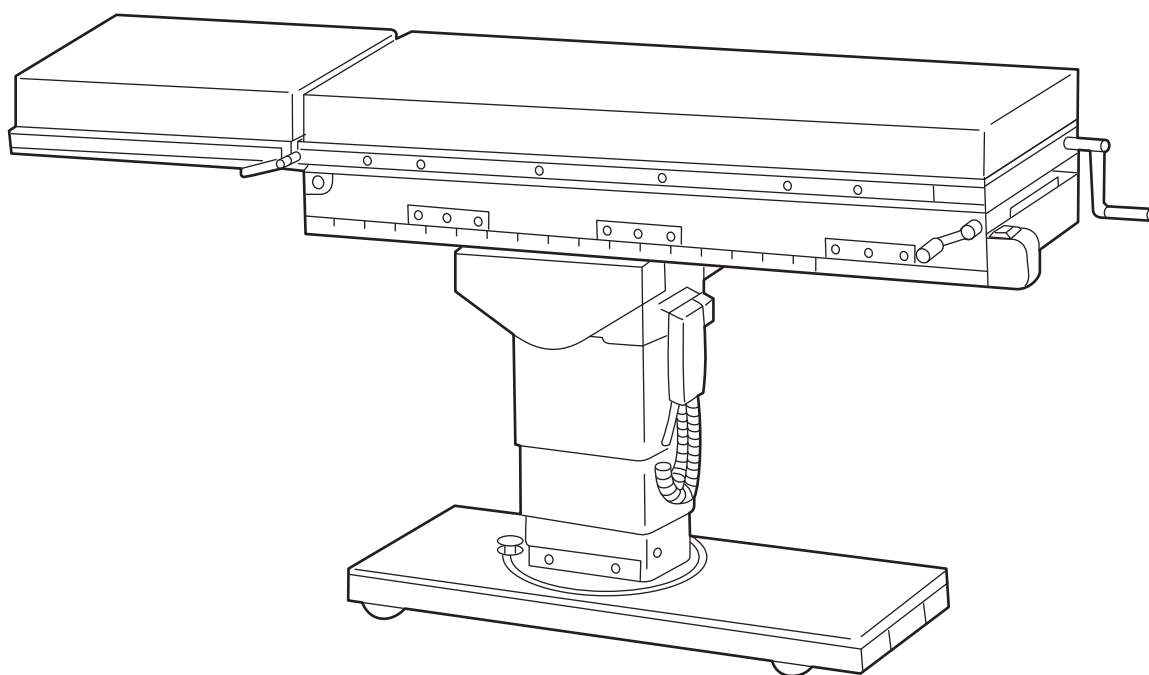




手術台取扱説明書

MOT-8302

透視テーブル
移動式コラム
ストレッチャー



手術台は手術を目的として設計されています。手術以外の目的で使用すると重大な事故を起こすおそれがあります。

操作や保守を行う者は必ず注意事項等情報および本書を読んで内容を理解してください。本書は、この手術台に関わる者の参考のために適切な収納場所に保管して、必要なときに読めるようにしてください。

目次

| | | |
|------------|-------------------------|-----------|
| 1 章 | はじめに | 1 |
| 1.1 | 本書について..... | 1 |
| 1.2 | 本機について..... | 1 |
| 1.3 | 付属品..... | 2 |
| 2 章 | 保証について | 4 |
| 3 章 | お使いになる前に | 5 |
| 3.1 | お使いになる前にお読みください..... | 5 |
| 3.2 | ラベル内容と貼り付け位置..... | 10 |
| 4 章 | 各部の名称 | 14 |
| 4.1 | コラム/テーブルトップ..... | 14 |
| 4.2 | 操作ボックス..... | 15 |
| 4.3 | コードレス操作ボックス..... | 16 |
| 4.4 | フットスイッチ (オプション)..... | 17 |
| 4.5 | ストレッチャー..... | 18 |
| 5 章 | 操作方法 | 19 |
| 5.1 | 設置と充電..... | 19 |
| 5.2 | 電源の入れ方/切り方..... | 24 |
| 5.3 | 緊急停止スイッチの操作..... | 26 |
| 5.4 | コラムの固定と解除..... | 27 |
| 5.5 | テーブルトップの装着/分離..... | 28 |
| 5.6 | テーブルトップを横に傾ける (横転)..... | 32 |
| 5.7 | テーブルトップを縦に傾ける (縦転)..... | 33 |
| 5.8 | テーブルトップの高さを変える..... | 35 |
| 5.9 | テーブルトプをスライドさせる..... | 36 |
| 5.10 | 自動水平復帰..... | 37 |
| 5.11 | コラムの回転..... | 38 |
| 5.12 | 脚板の調節..... | 39 |
| 5.13 | 腹部挙上..... | 41 |
| 5.14 | カセット移動板..... | 42 |
| 5.15 | ストレッチャーの機能..... | 43 |
| 6 章 | 保守と点検 | 45 |
| 6.1 | 使用前・使用後の点検..... | 45 |
| 6.2 | 定期交換部品..... | 47 |
| 6.3 | ソフトウェアのバージョン情報..... | 47 |

| | |
|-----------------------------------|-----------|
| 7 章 仕様 | 48 |
| 7.1 仕様表..... | 48 |
| 7.2 外観図..... | 50 |
| 8 章 修理を依頼する前に | 51 |
| 付録 -1 EMC（電磁両立性）について | 54 |
| 付録 -2 用語解説 | 57 |

1 章 はじめに

1.1 本書について

本書は、本機を安全に、効果的にご使用いただくための取扱説明書です。
本機をご使用いただく前に、必ず本書を読み、操作・点検事項を十分理解されてから使用してください。
本書に従わなかった場合、重大な事故に結びつくおそれがあります。

本書の警告および注意内容、または本機に貼り付けた警告および注意内容を理解していただくため、安全のための情報を以下のように使い分けています。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

補足

この表示は、製品の機能について補足事項を示しています。

本書に記載されている操作・点検に関する注意事項は、本機を手術の目的に使用する場合に関するものです。
手術以外の目的に使用する場合、および本書に記載されていない操作・点検を行う場合の安全については、すべて使用者側の責任になります。

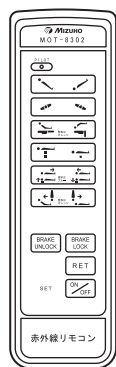
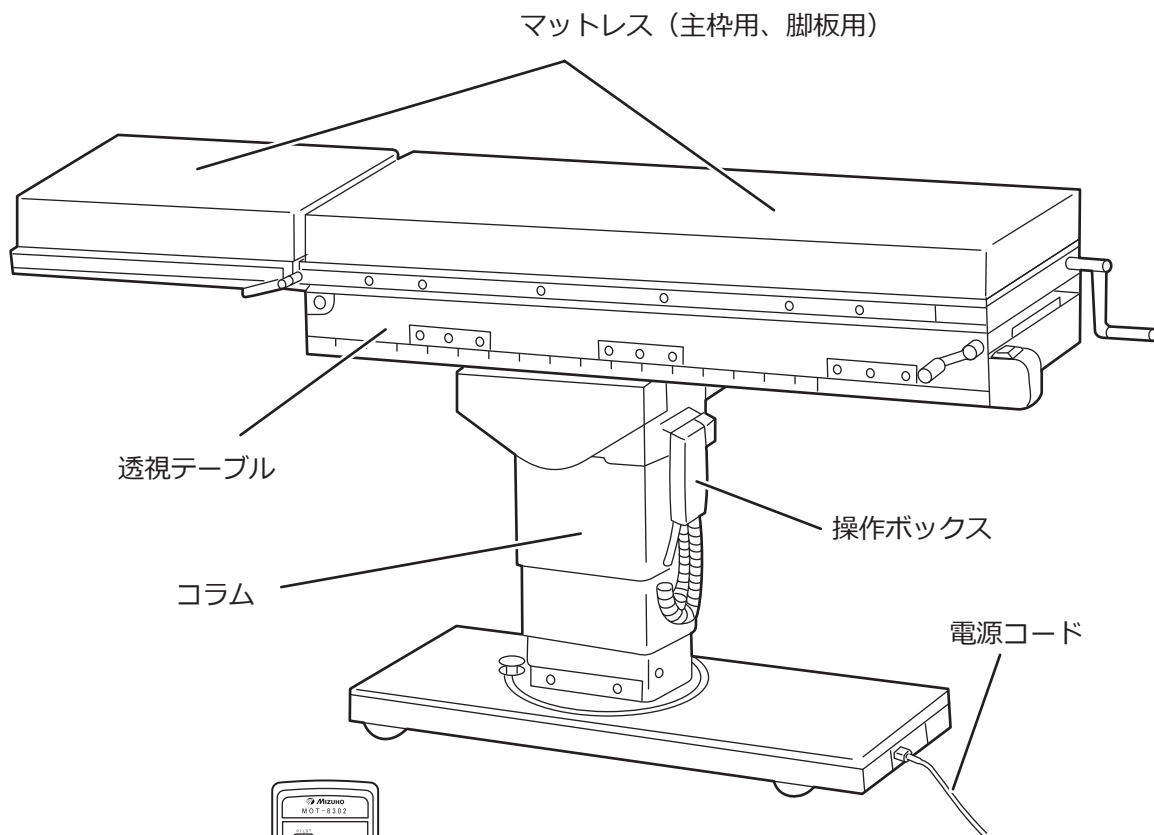
1.2 本機について

本機は、手術が必要な患者を乗せて手術をするテーブルです。
本機は外科手術において、患者を支持することを目的としています。
目的とする手術に合わせて高さの調節や、患者の体位を自由に変えて固定する機構を備えています。
電源は医用コンセント電源式・電池電源式の併用式です。
病院の手術室において、本機の使用方法を熟知した医師・看護師・医療機器の技術者が使用してください。

1.3 付属品

■ コラム/テーブルトップ

● 標準構成



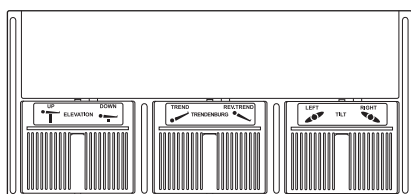
コードレス操作ボックス



取扱説明書

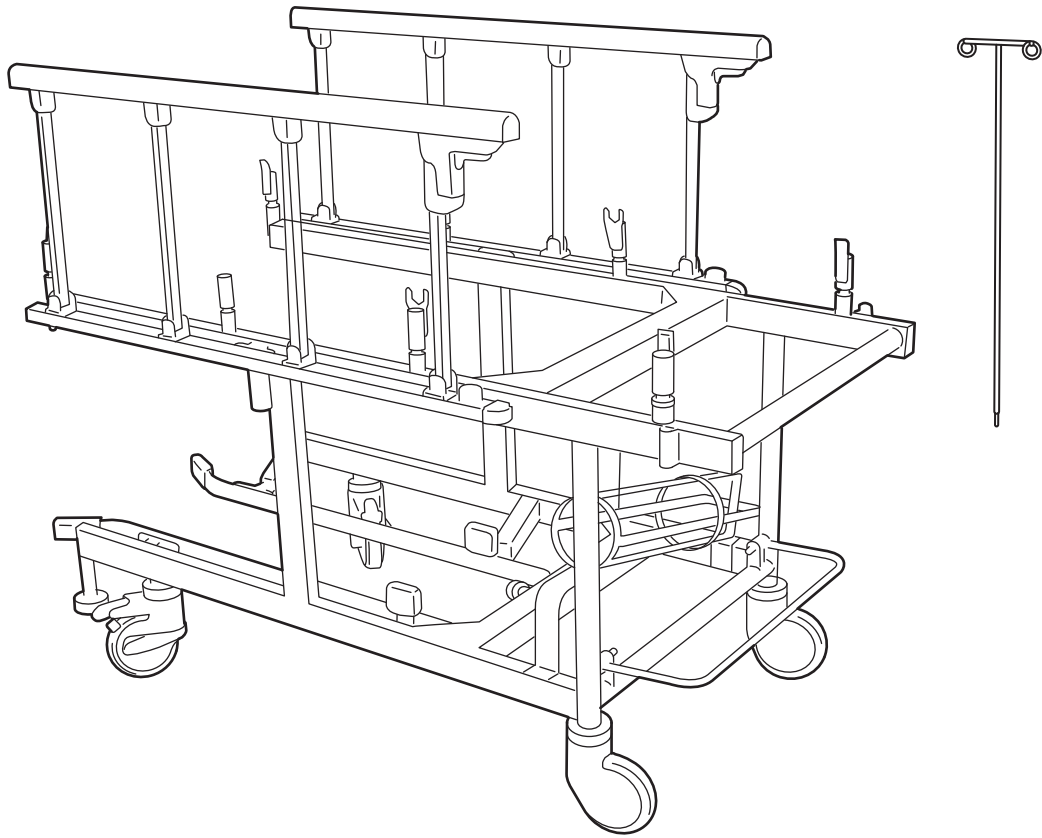
※図は移動式コラム

● オプション



フットスイッチ

■ ストレッチャー / DXストレッチャー



※図はDXストレッチャー

2章 保証について

本製品は下記の保証修理規定に従って修理いたします。

<保証修理規定>

1. 保証期間は納品／設置日から1年間です。保証期間内に注意事項等情報・取扱説明書・貼付ラベル等の注意書に従ったご使用で故障した場合には無償修理をさせていただきます。
2. 修理をご依頼になる場合には、お買い上げの販売店または弊社営業所にお申しつけください。お申しつけに当たっては以下の内容をご連絡ください。
 - (ア) 型名
 - (イ) 製造番号（製品のラベルをご確認ください※）
 - (ウ) 故障の状態
3. 保証期間内でも以下の場合には原則として有料にさせていただきます。
 - (ア) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - (イ) お買い上げ後の設置場所の移設、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - (ウ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変及び公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷。
 - (エ) 車両、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷。
 - (オ) 消耗製品が自然劣化し消耗部品を取り替える場合。
 - (カ) 前各号に掲げる場合のほか、故障の原因が、お客様の使用方法にあると認められる場合。
4. 保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社営業所にお問い合わせください。
5. 本規定は日本国内においてのみ有効です。

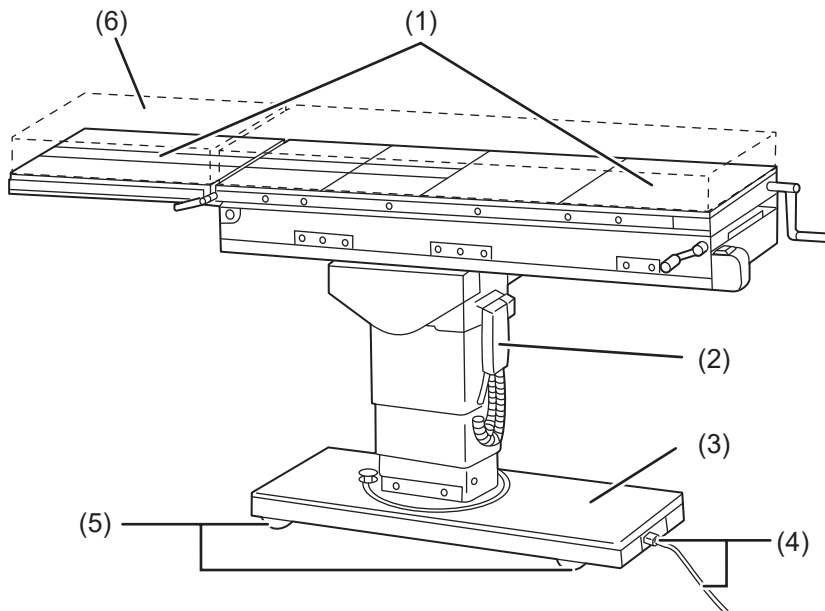
以上

※製造番号のラベルについては、P.10の(2)(11)、P.12の(25)SNをご確認ください。

3章 お使いになる前に

3.1 お使いになる前にお読みください

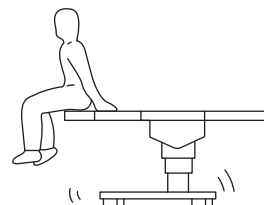
本機を使用するにあたって、以下の警告・注意事項をよくお読みのうえ、必ずお守りください。



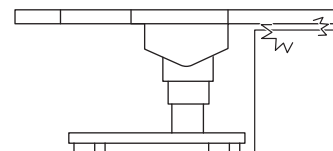
(1) 頭部板および脚板



頭部板や脚板の上に乗ったり座ったりしないでください。
転倒、けがのおそれがあります。



下降および縦転を作動するとき、脚板下の機器等の有無を確認してください。
脚板が機器等に接触して無理な力が加わると、手術台が破損するおそれがあります。



患者を手術台から移し替えるとき (図 a) や患者の体位を変えるとき (図 b) は、頭部板または脚板に無理な力を加えないでください。手術台が変形または損傷するおそれがあります。

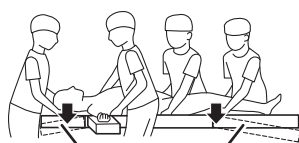


図 a 頭部板 脚板



図 b 頭部板 脚板

(2) 操作ボックス

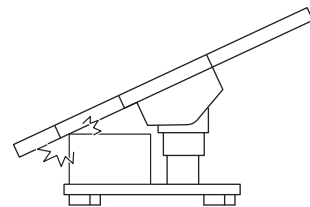


- 操作ボックスのコードを無理に引っ張らないでください。
- 操作ボックスに強い衝撃を与えないでください。破損するおそれがあります。

(3) ベース部分



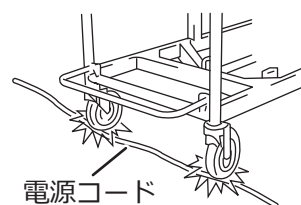
ベースの上に物を置かないでください。物がはさまり、手術台が損傷するおそれがあります。



(4) 電源コード・電源コネクタ



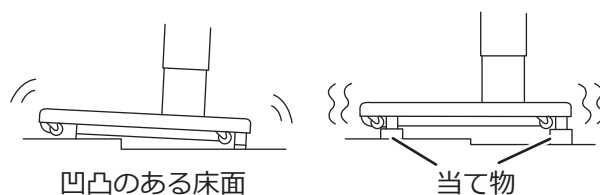
- 電源コードの上に重量物を置かないでください。
- 他の機器のキャスター等で乗り越えないでください。
- 電源コードは無理に引っ張らないでください。
- 電源コードを医用コンセントから引き抜く位置に、引き抜く作業を妨げる物を置かないでください。
- 電源コネクタ内に液体等が浸入しないよう、ビニールシート等で覆うなどの防水対策をしてください。電源コネクタ内に液体等が浸入すると、火災・破損の原因になります。



(5) 手術台の設置



- 手術台を凹凸のある床面に設置しないでください。
- 手術台を高くするために手術台の下に当て物を入れしないでください。転倒、けがのおそれがあります。



(6) マットレス



必ず付属のマットレスを外れないように確実に取り付けてください。マットレスがずれ落ちて、けがをするおそれがあります。



注意

- マットレスは端から面ファスナーに沿って真っ直ぐ取り付けてください。特に長いマットレスは、表面にしわができないように手で支えながら取り付けてください。マットレスに浮きや反りがあると変形や破損の原因になります。
- マットレスに直接テープ等を貼付しないでください。破損の原因になります。
- マットレスは平らな場所に置いて保管してください。立てかけたり折り曲げたりすると変形や破損の原因になります。
- マットレスの上に手術台アクセサリや他の医療機器等を載せて保管しないでください。変形や破損の原因になります。

■ 使用時のポジション



警告

患者のポジションは、サイドレール（金属）から 10mm 以上離して設定してください。電気メスなどの使用でサイドレールが高温になり、触れると火傷をするおそれがあります。

● 患者のポジション

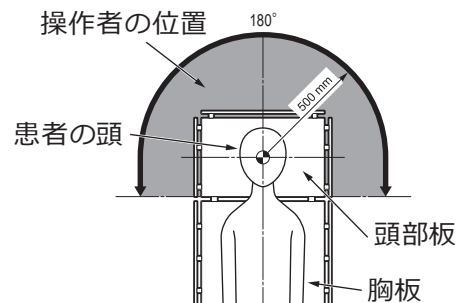
患者のポジションを設定するときは、以下の手順で行ってください。

1. テーブルトップと付属のマットレスの面ファスナーをずれないように合わせて取り付けます。
2. 患者をマットレスに乗せます。（頭部側と脚部側を逆にして患者に乗せないでください。）
3. 手術の目的に合わせたポジションを設定します。



注意

手術台を操作する者は、緊急停止スイッチを即座に押せる位置および患者の容態を常に観察できる位置で操作してください。



■ その他



● 分解・改造の禁止

- 手術台を分解または改造しないでください。故障の原因になります。

● 患者の体位

- 患者の任意の体位を確保するためにテーブルトップを作動、またはアクセサリーで支持するときは、常に患者の状態を監視してください。長時間の体位保持は神経麻痺や褥瘡の原因になります。

● 併用する他の医用電気機器

- 高周波手術用機器、除細動器等を併用するときは当該機器の取扱説明書を参照して、注意事項および使用方法を遵守してください。注意事項および使用方法を誤ると患者・操作者が火傷、および機器に障害がおきるおそれがあります。
- 医用電気機器等を併用するときは、使用前に正常に作動することを確認してください。電磁的影響による誤作動が発生するおそれがあります。

● 許容患者体重

- 許容患者体重（患者およびアクセサリーの合計）を超える荷重（注）をかけないでください。手術台が作動せず、また故障の原因になります。
注）昇降：135kg / 昇降以外の作動：135kg

● 保守点検

- 使用前・使用後の点検、および適切な保守点検を必ず行ってください。使用期間または使用頻度によっては、部品の著しい消耗・劣化・破損等により、該当部品の交換が必要な場合があります。
- 保守点検については、ご購入店または弊社に相談してください。

● 静電気防止

- 静電気対策が不十分な床またはアクセサリーで使用しないでください。手術の障害になるおそれがあります。



注意

●併用する機器やアクセサリ

- 機器やアクセサリを併用する前に、それぞれの注意事項等情報または取扱説明書をよく読んで、手術台への影響を確認してください。他社製のアクセサリを取り付ける場合は、事前にご購入店または弊社に相談してください。アクセサリが装着できない場合があります。
- 手術台を作動するときは、併用する機器やアクセサリの位置を確認してください。作動中に接触して、手術台または併用する機器やアクセサリが損傷するおそれがあります。
- 衛生のため、患者が手術台に触れる部分には必ず滅菌済ドレープを使用してください。

●清掃と消毒

- 手術台を使用した後は、必ず以下の手順で手術台の清掃および消毒をしてください。
 - 電源を切って、電源コードを医用コンセントから外します。
 - 手術台からすべてのマットレスを取り外します。
 - 糸くずの出ない清潔な布に適量の消毒液等をつけて、各マットレスの上面・側面・裏面を拭きます。
 3. と同様の手順で、各テーブルトップおよびサイドレール表面を消毒します。
 - 消毒後 15 分以内に清潔な布でから拭きします。
- 必ず弊社確認済みの消毒液等を使用してください。弊社確認済みの消毒液等は以下のとおりです。

| | 薬品名称 |
|----|-------------------------------|
| a) | 次亜塩素酸ナトリウム 0.1% (ハロゲン系薬剤) |
| b) | ハイポアルコール (ヨード脱色剤) |
| c) | クロルヘキシジン (グルコン酸クロルヘキシジン 0.5%) |
| d) | 塩化ベンザルコニウム (逆性石けん 10%) |
| e) | ポビドンヨード |
| f) | エタノール 80% |
| g) | オキシドール (過酸化水素水) |
| h) | イソプロピルアルコール (IPA) |

●移動時および輸送時の注意

- 患者を手術台に乗せたままで手術台を移動しないでください。
- 手術台を移動するときは、以下の手順で行ってください。
 - ※感染防止のため、手術台を移動するときは必要に応じて手術台全体を消毒してください。
 - 1. 電源を切って、電源コードを医用コンセントから外します。
 - 2. ハンドルやレバー類が固定の位置になっているか、また各部がしっかりと固定されているか確認します。
 - 3. ブレーキを解除して、手術台を移動します。
 - ※脚板を引いて手術台を移動しないでください。
- 輸送は以下の条件を満たした状態で行ってください。
 - 輸送の前に、必ず手術台全体を消毒する。
 - テーブルトップを最低位置まで下げるなど、転倒防止の対策をする。
 - ブレーキを作動させる。
 - 緩衝材などを適切に配置し、輸送中の衝撃による破損を防ぐ。
 - コンテナなどに収納して、埃や風雨にさらされないようにする。

●廃棄時の注意

- 手術台を廃棄するときは、関係する法律または地方自治体の条例に基づいて適切に処置してください。

3.2 ラベル内容と貼り付け位置

本機には下記の位置に各種ラベルが貼り付けてあります。
ご使用になる前に必ず各種ラベルの内容をご確認ください。

■ コラム/テーブルトップ

3

お使用になる前に

カセット移動板

(17)

★ : 左右貼付

A 視図 B 視図 C 視図 D 視図

(4) (5) (6) (8) (7) (10) (11)

(1) C658321□

(2) C658316□

| | |
|---|----------------------|
| MIZUHO | |
| 販売名: | |
| 一般医療機器 | V |
| 電源周波数 | 50/60Hz |
| 手術室ガスシステム | VA |
| 特定保守管理医療機器 | 399 ON 分 OFF EOLC 適合 |
| 製造販売承認番号 | 1381X003006 |
| IPX | IPX4 |
| SN: | クラス I 機器 B 形後蓋部 |
| 製造販売業者 三スホ株式会社 | |
| 〒111-0033 東京都文京区本郷3-25-13 http://www.mizuho.co.jp | |

(3) C600080□

(4) C657312□

(5) C657313□

(6) C651305□

| | |
|-------------------|-------------------|
| 135kg MAX (300lb) | 135kg MAX (300lb) |
| | |

(7) C653513□

(8) C657321□

| | |
|----------|------------------------------|
| 警告 | |
| | ● 手術台を分解しないこと。火災・感電の原因となります。 |
| | ● 保守・点検は必ず購入店または弊社へ連絡すること。 |
| | ● 使用にあたり、取扱説明書の内容を理解すること。 |
| C657321B | |

(9) C658324□

(10) C655713□

| | |
|----------|--------------------------------|
| 警告 | |
| | ● 脚板の上にはらないこと。転倒、けがをすることがあります。 |
| C655713A | |

(11) C658314□

(12) C600562□

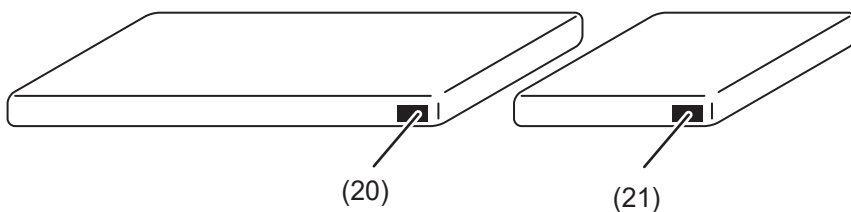
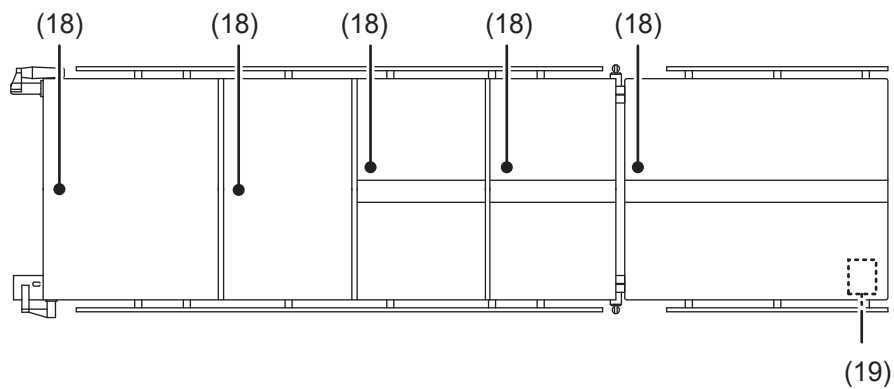
(13) C600560□

(14) C600563□

(15) C600561□

(16) C610171□

(17) C601120□



(18) C653620□



(19) C646044□



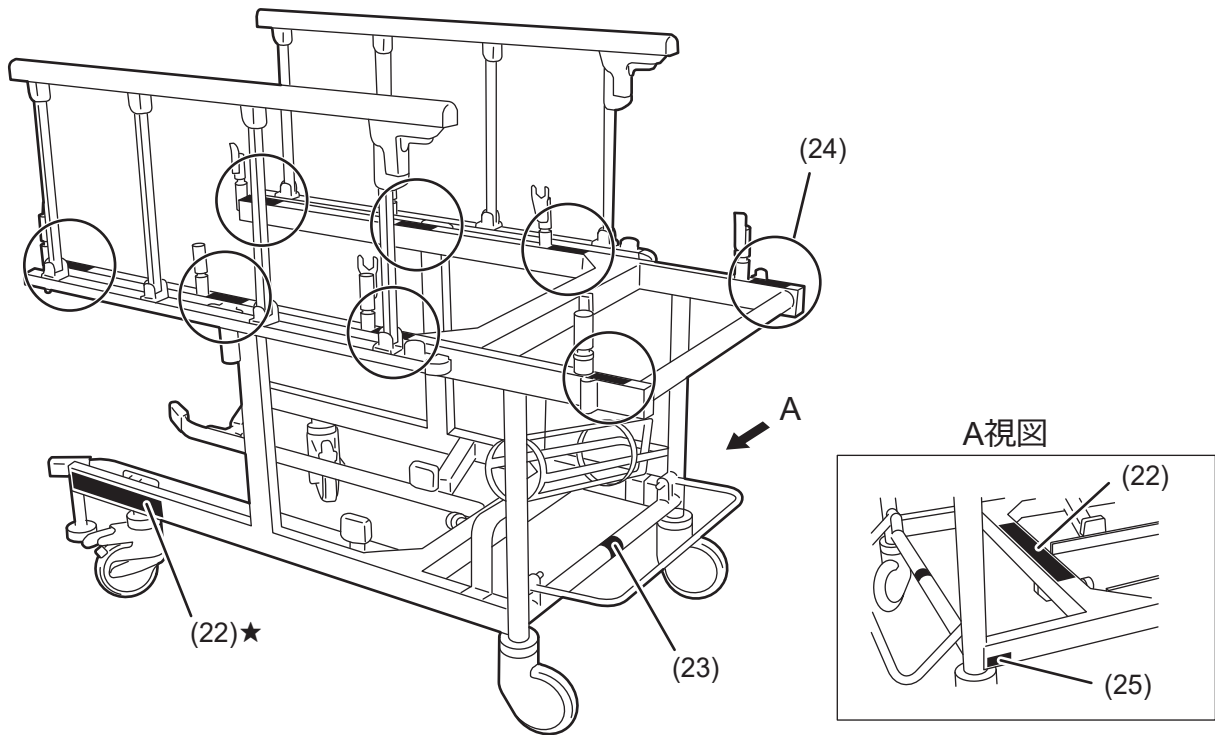
(20) PIN 836D6M1



(21) PIN 836D8M1



■ ストレッチャー



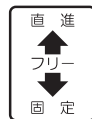
※図はDXストレッチャー

★：左右貼付

(22) C658325□



(23) C600092□



(24) C600555□



(25) C658314□



■ 安全記号一覧

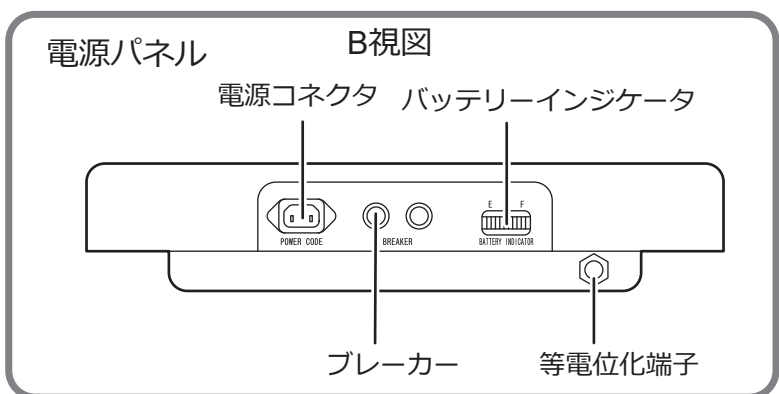
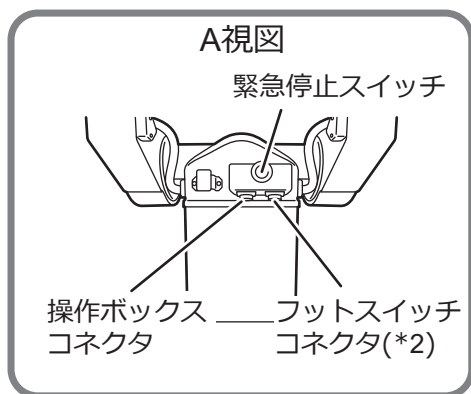
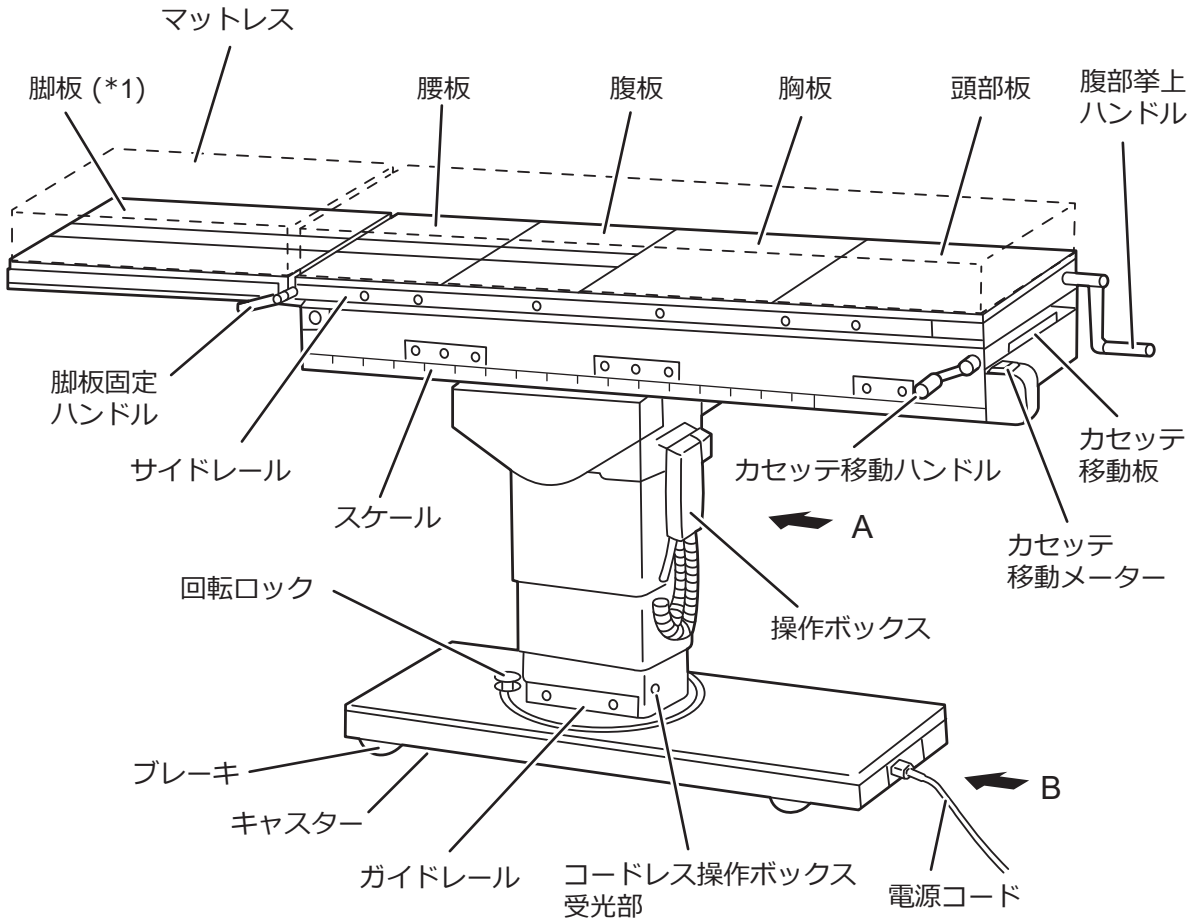
| 記号 | 解説 | ラベル No. |
|---|-----------------|---------------|
|  | 一般的な危険標識（警告、注意） | (8) (10) |
|  | 一般的な禁止標識 | (8) (10) (24) |
|  | 一般的な指示 | (8) |
|  | 緊急停止 | (4) |
|  | 取扱説明書に従うこと | (5) (8) |
|  | 交流 | (2) |
|  | 直流 | (2) |
| IPX4 | 水の浸入に対する保護等級 | (2) |
| SN | 製造番号 | (2) (11) (25) |
|  | 等電位 | (7) |
|  | B 形装着部 | (18) |
|  | 耐除細動形の B 形装着部 | (20) (21) |
|  | 製造業者 | (20) (21) |

4章 各部の名称

4.1 コラム/テーブルトップ

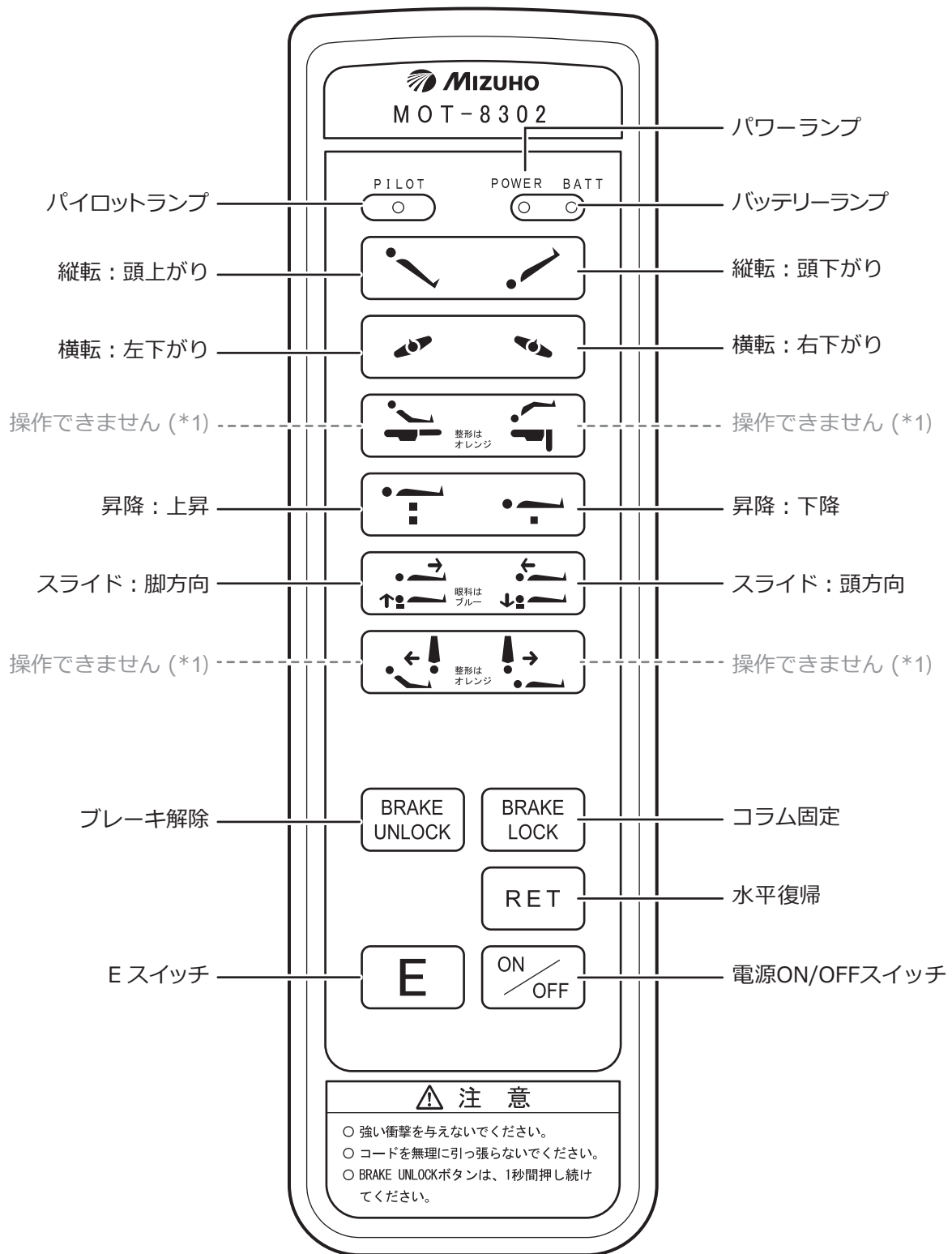
4

各部の名称



* 1 : 脚板は取り外し可能です。
 * 2 : フットスイッチはオプションです。

4.2 操作ボックス



*1：装着するテーブルトップにより使用可能な機能が異なります。

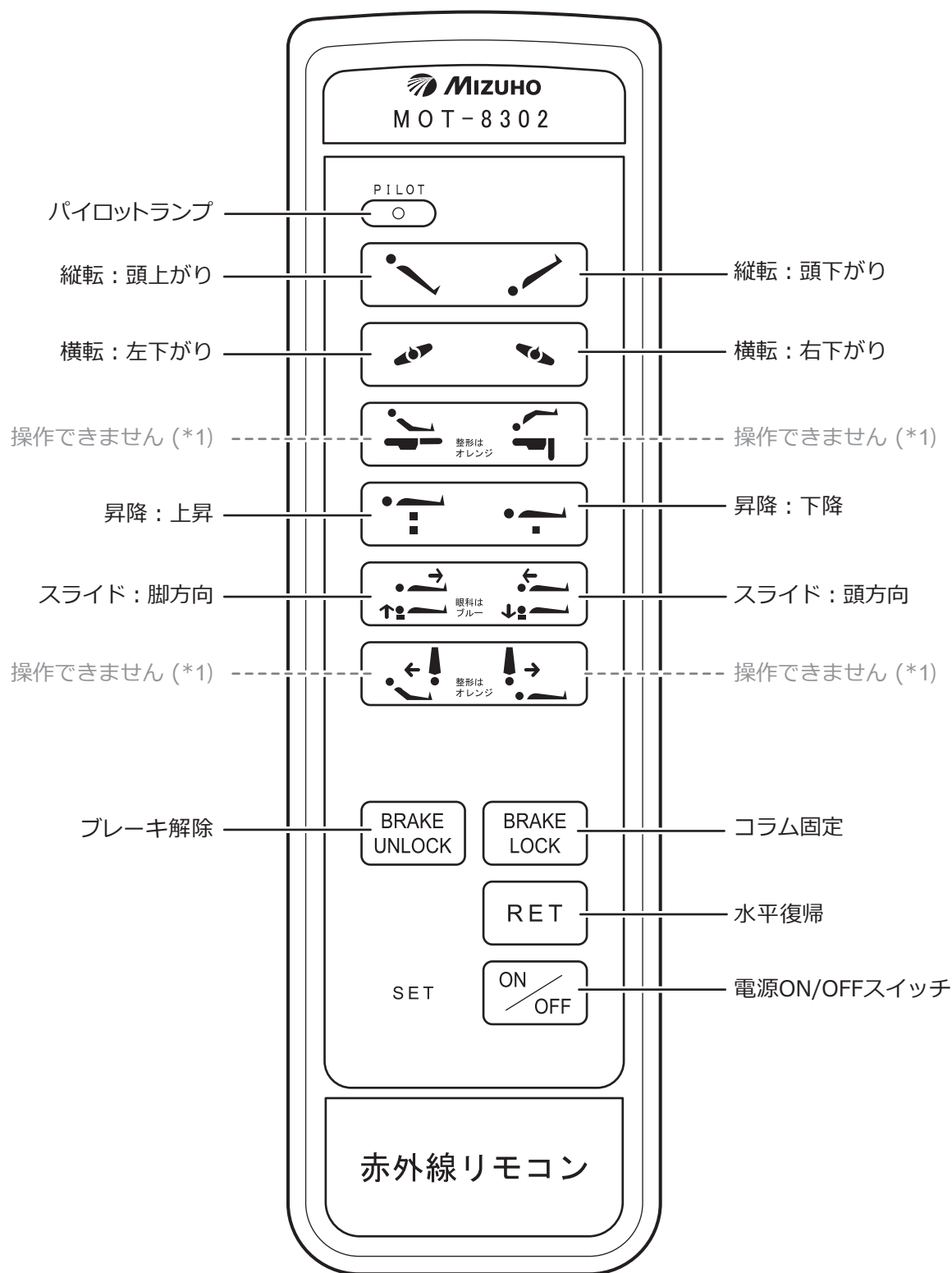
補足

- 操作ボックスは [E] を押しながら機能スイッチを押します。機能スイッチを押している間は機能が作動し、離すと停止します。各機能は最大限に達すると作動が停止します。
- 手術台を約 3 分連続して操作した場合、約 3 分の休息時間を設けてください。

4.3 コードレス操作ボックス

4

各部の名称

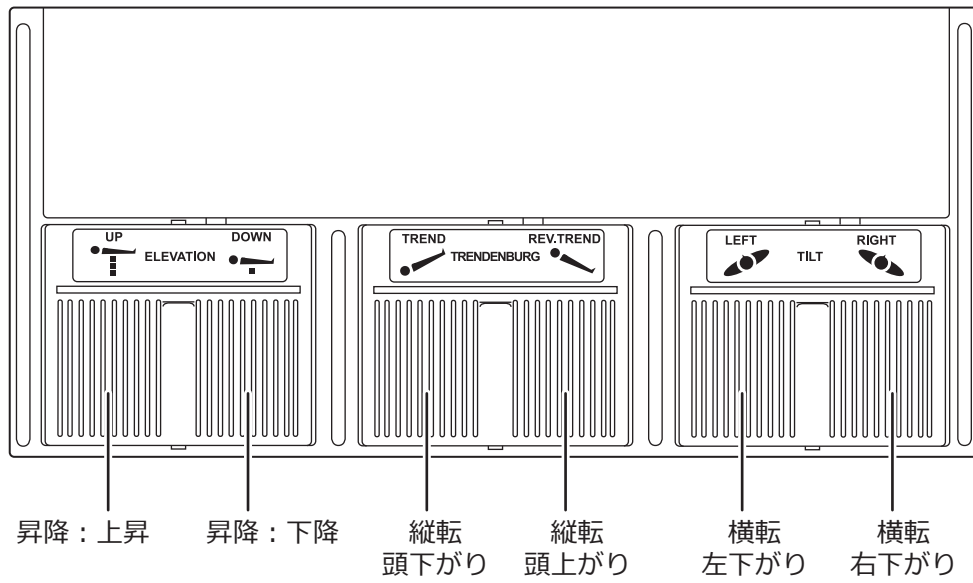


*1：装着するテーブルトップにより使用可能な機能が異なります。

補足

- コードレス操作ボックスはコラムのコードレス操作ボックス受光部に向けて操作します。機能スイッチを押します。機能スイッチを押している間は機能が作動し、離すと停止します。各機能は最大限に達すると作動が停止します。
- 手術台を約3分連続して操作した場合、約3分の休憩時間を設けてください。

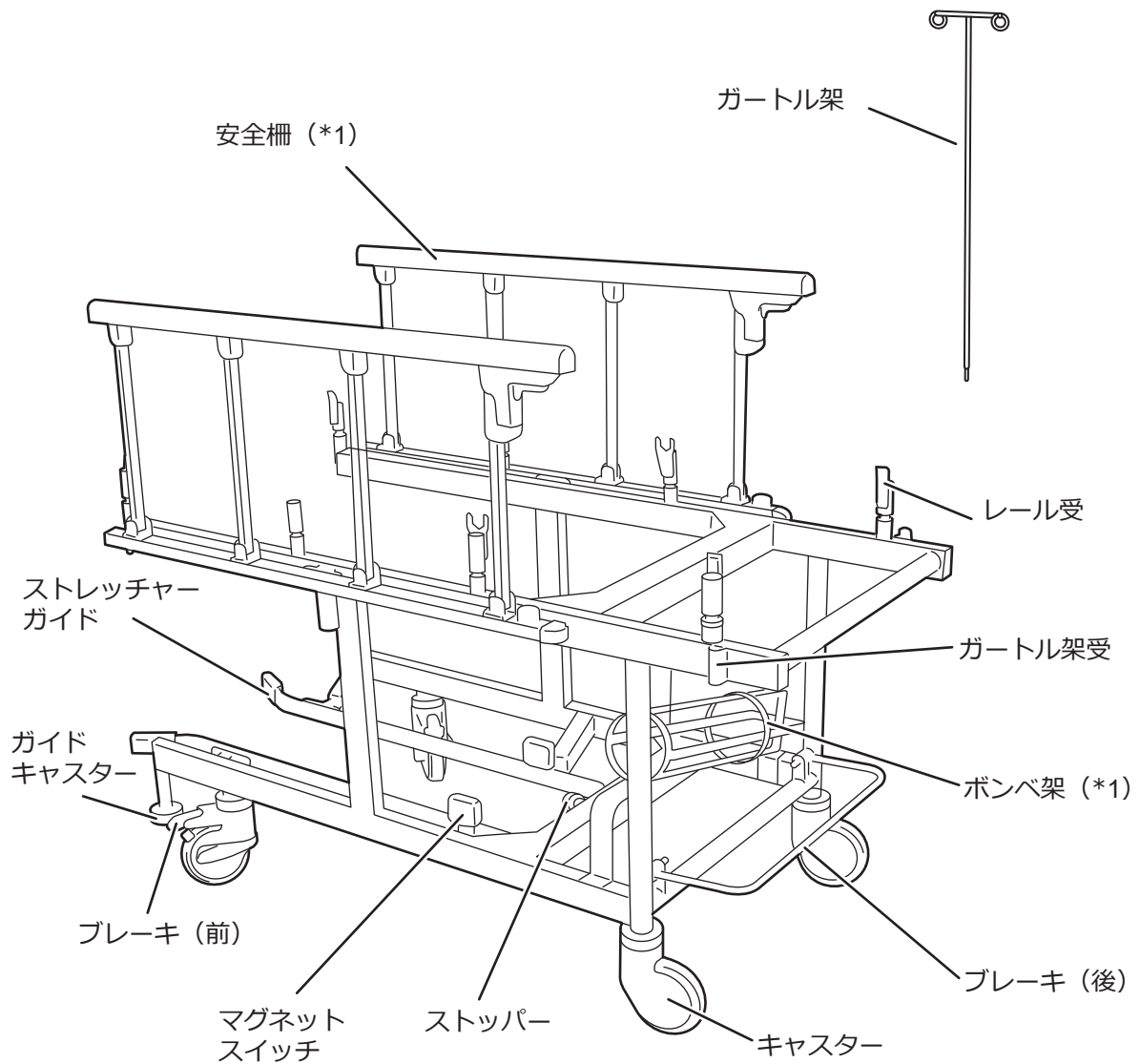
4.4 フットスイッチ (オプション)



4.5 ストレッチャー

4

各部の名称



※図はDXストレッチャー

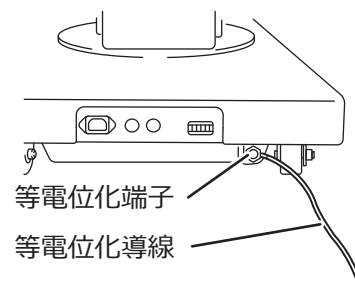
*1 : 安全柵およびポンペ架は DX ストレッチャーに装着

5章 操作方法

5.1 設置と充電

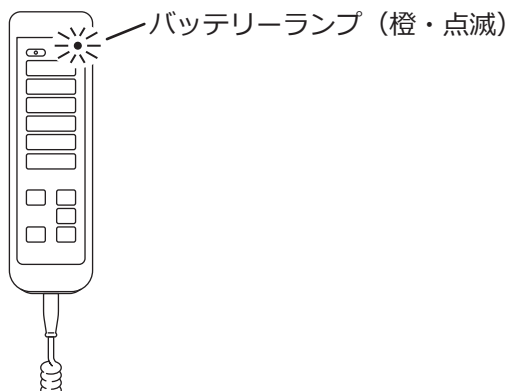


- 等電位化端子と医用接地端子を等電位化導線で接地してください。等電位化導線は別途用意してください。
- 本機を移動させる際は、2人以上で行ってください。

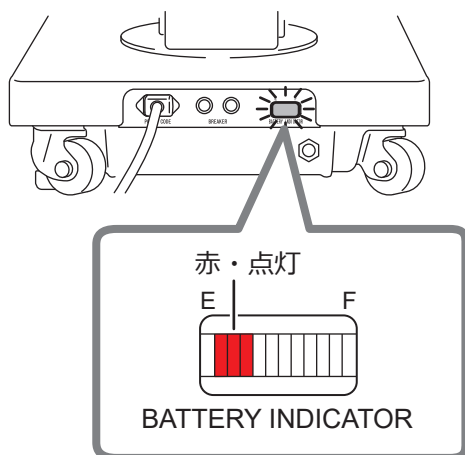


■ 設置する

1. 平らな場所に移動します。
2. バッテリーランプを確認します。
操作ボックスのバッテリーランプ（橙）が点滅したら充電が必要です。

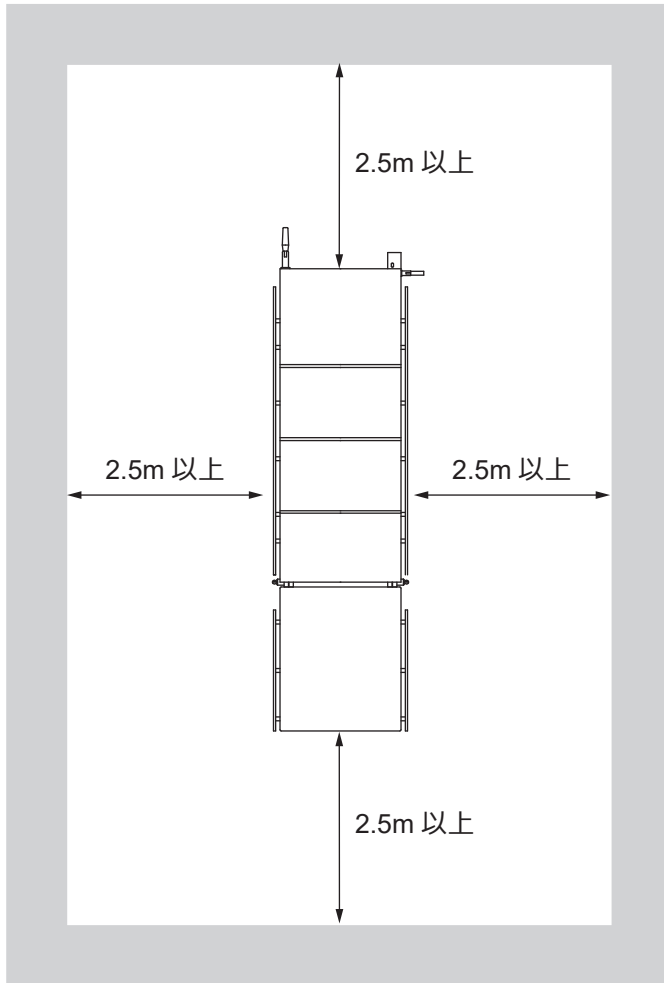


3. バッテリーインジケータの赤が点灯したら充電が必要です。



■ 設置スペース

本機の設置スペースは以下のとおりです。
(JIS T 1022 : 病院電気設備の安全基準)



5

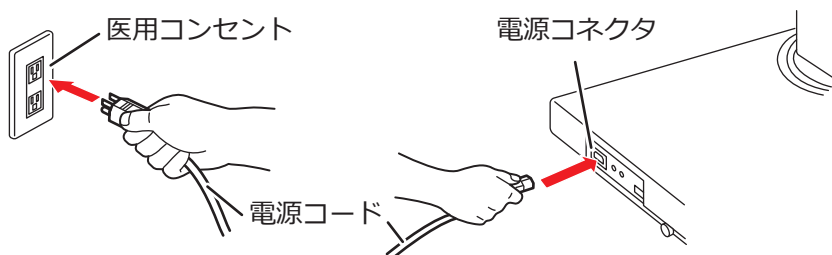
操作方法

■ 充電する



- ・ 感電の危険を回避するために、保護接地を備えた電源に接続してください。
- ・ 電源コードは必ず「MIZUHO」ロゴ付きの専用コードを使用してください。
- ・ 電源コネクタ内に液体の浸入、または埃などが付着していないことを確認してから、電源コードを差し込んでください。
- ・ 電源を完全に遮断するときは、電源コードを医用コンセントから引き抜いてください。
- ・ バッテリーが劣化すると、停電などで交流電源が使えないときに、バッテリー電源による使用ができなくなります。
- ・ バッテリー電源での使用から AC 電源での使用に切り替えるときは、必ずブレーキが固定状態であること、およびテーブルトップが完全に装着されていることを確認してください。バッテリー供給電力が弱い状態ではブレーキが完全に固定できないこと、またテーブルトップが完全に装着できない場合があります。

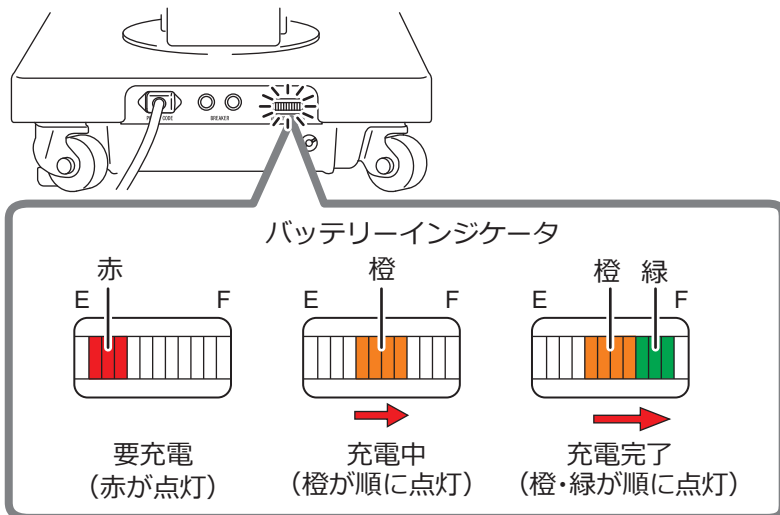
1. 電源コードを電源コネクタと医用コンセントに差し込みます。




2. 充電が始まります。

充電中はバッテリーインジケータの橙が順に点灯します。

3. バッテリーインジケータの橙と緑が順に点灯すると充電は完了です。

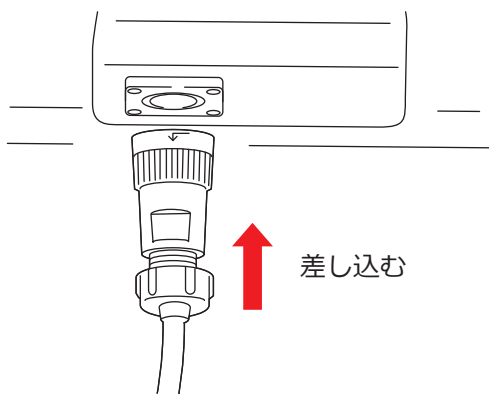


補足

- ・ ご購入後、初めて使用するとき、または長い間使用しなかったときは、必ず充電してから使用してください。バッテリーは未使用の状態でも自然放電します。
- ・ バッテリー電源での使用中、操作ボックスのバッテリーランプが点滅、または手術台下部のバッテリーインジケータの赤が点灯している場合は、直ちに充電してください。充電不足になると交流電源による使用のみ可能となり、バッテリー電源による使用はできなくなります。
- ・ 本機で使用しているバッテリーの交換時期の目安は約2年です。交換時期を経過したら必ずご購入店または弊社にバッテリー交換を依頼してください。
- ・ 使用条件によりバッテリーの寿命は大きく変わります。短時間使用で頻繁に充放電が繰り返されると、バッテリーの劣化が早まる可能性があります。
- ・ 充電満まで最長で20時間程度掛かりますので、週一回充電（週末の充電）をお勧めします。
- ・ 充電してもバッテリーがすぐに放電する場合は、バッテリーの劣化が考えられます。ご購入店または弊社に修理を依頼してください。
- ・ 充電中でも、操作ボックスの  で操作可能です。

■ 操作ボックスの取り付け

1. コネクタをガイドに合わせて差し込みます。

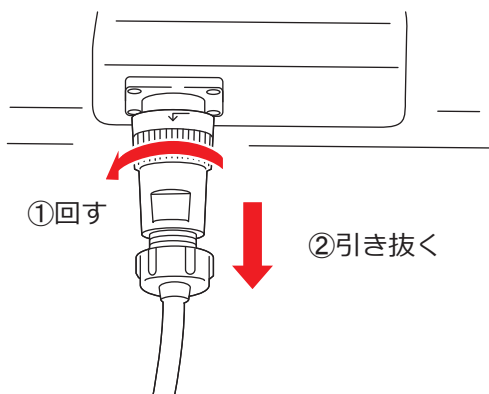


5

操作
方法

■ 操作ボックスの取り外し

1. コネクタのリングを矢印方向に止まるまで回します。
2. 止まったら下に引き抜きます。



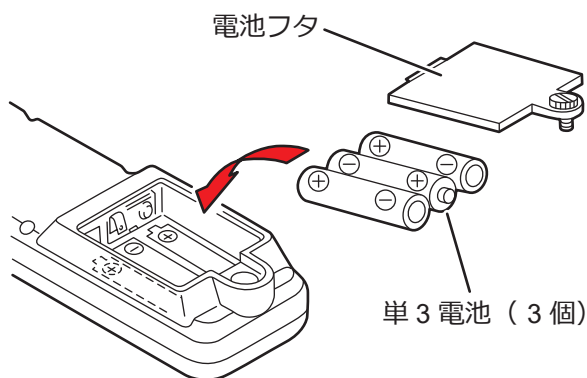
■ コードレス操作ボックスの操作



- 新旧、異種の電池を混ぜて使用しないでください。
- コードレス操作ボックスに強い衝撃を与えたり水をかいたりしないでください。故障の原因になります。

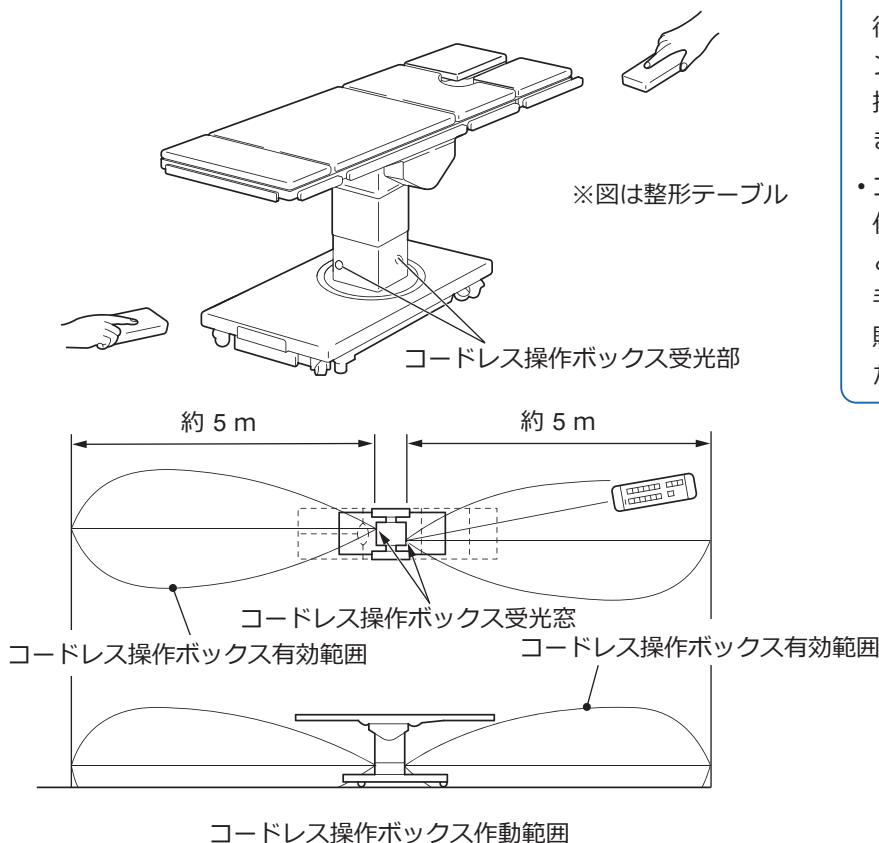
● 準備

1. マイナスドライバーで、コードレス操作ボックスの電池フタを外します。
2. 単3電池（3個）を入れます。
3. 電池フタを取り付けます。



● 操作

1. 手術台のコードレス操作ボックス受光部に向けてコードレス操作ボックスを操作します。



補足

電池の寿命は平均で1年です。ただし、寿命は使用状態によって異なります。コードレス操作ボックスを操作して作動が不安定になったら、電池を交換してください。

補足

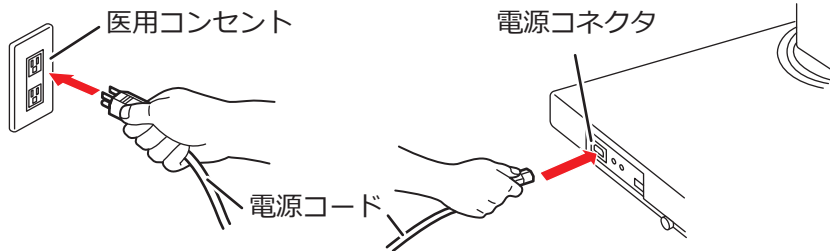
- コードレス操作ボックスと手術台本体の受光部の間にリネンや器具があるとコードレス操作ボックスからの信号が届きません。
- コードレス操作ボックスの操作で他の電気機器が作動したとき、または他のリモコンで手術台が作動したときは、ご購入店または弊社にご連絡ください。

5.2 電源の入れ方／切り方

■ 医用コンセントの電源で使用する場合

● 電源の入れ方

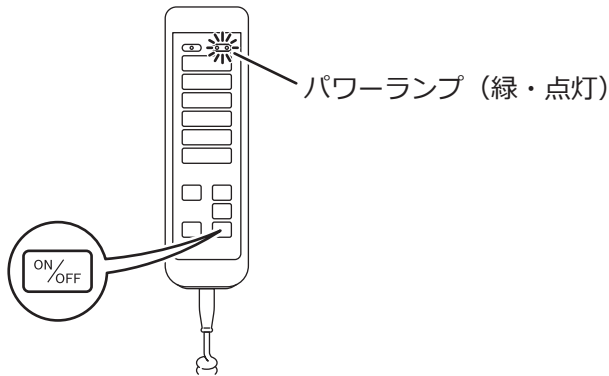
1. 電源コードを電源コネクタと医用コンセントに差し込みます。
バッテリーインジケータが点灯します。



補足

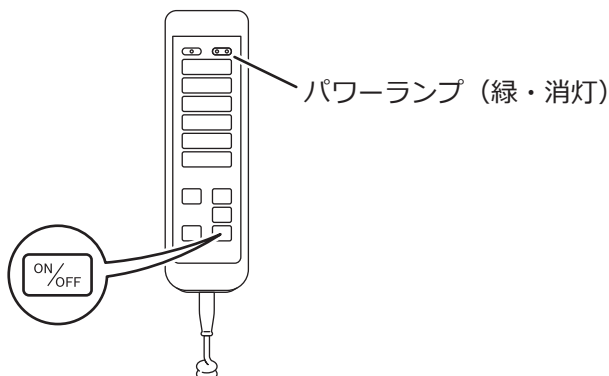
緊急時または電源を完全に遮断するときは、電源コードを医用コンセントから引き抜いてください。

2. 操作ボックスの **ON/OFF** を押します。
操作ボックスのパワーランプ（緑）が点灯して電源が入ります。



● 電源の切り方

1. 電源が入っている状態で、操作ボックスの **ON/OFF** を押します。
操作ボックスのパワーランプ（緑）が消灯して電源が切れます。

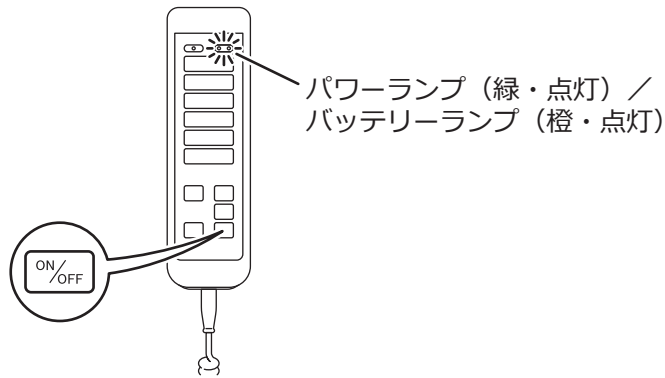


■ バッテリー電源で使用する場合

● 電源の入れ方

1. 電源コネクタに電源コードが接続されていない状態で、操作ボックスの **ON/OFF** を押します。

パワーランプ（緑）とバッテリーランプ（橙）が点灯して電源が入ります。



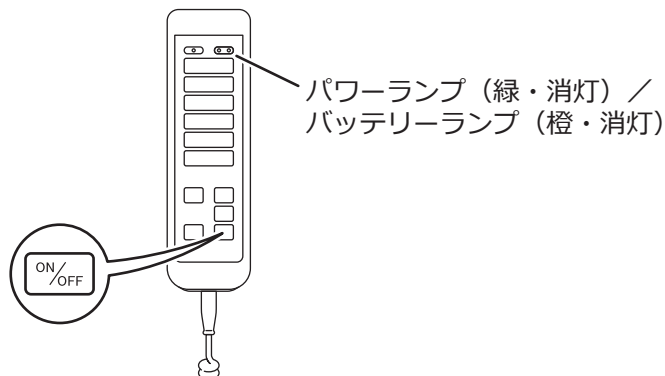
補足

バッテリー電源で使用中、2時間以上操作しないと自動的に電源がOFFになります。

● 電源の切り方

1. 操作ボックスの **ON/OFF** を押します。

パワーランプ（緑）とバッテリーランプ（橙）が消灯して電源が切れます。



5.3 緊急停止スイッチの操作

緊急時には、緊急停止スイッチを押すと、手術台の作動を停止させることができます。

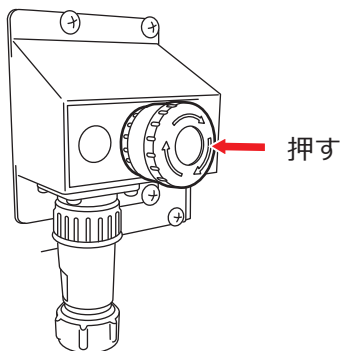


警告

緊急停止スイッチは緊急時のみ使用してください。

■ 緊急時の操作

1. 緊急停止スイッチを押します。
ブザーが鳴り、手術台の作動が停止します。



補足

緊急停止スイッチは操作ボックスコネクタの上部にあります。

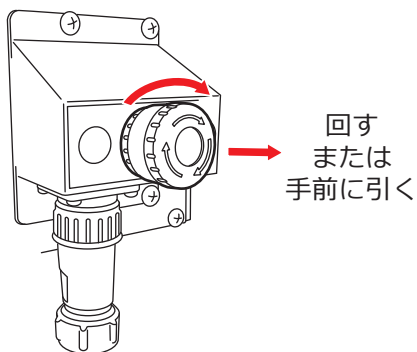
■ 解除時の操作



注意

手術台の隙間に手を挟んだ等で、手術台を元の状態に戻す場合は、操作ボックスのスイッチを押して、手術台を反対方向へ作動させてください。

1. 手術台の作動停止後、緊急停止スイッチを矢印の方向に回す、または手前に引いて解除します。
ブザーが止まります。



5.4 コラムの固定と解除

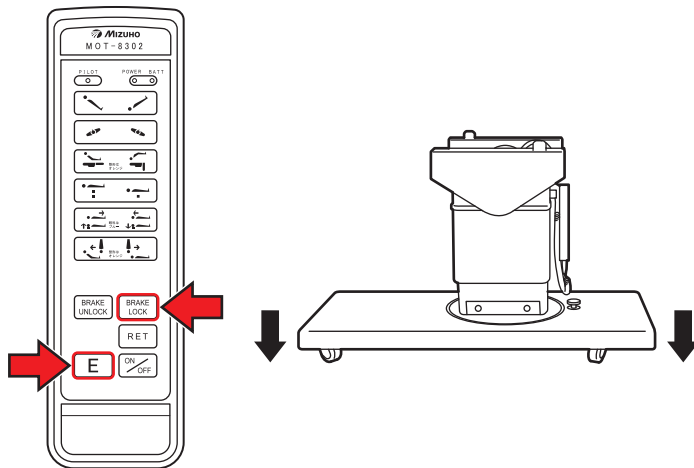
■ コラムを固定する



- ブレーキ作動後、コラムが確実に固定されていることを確認してください。
- 作動を停止する必要がある場合は、緊急停止スイッチを押してください。

1. [E] を押しながら [BRAKE LOCK] を押します。

ブレーキが作動してコラムが固定されます。各機能の操作は、コラム固定が完了するまで作動しません。



補足

- コラム固定とブレーキ解除は1回 [E] と [BRAKE LOCK] または [BRAKE UNLOCK] を押すだけで作動します。
- テーブルトップを装着した状態では、[E] を押しながら各機能スイッチを押すとブレーキが作動してコラムが固定されます。
- コラムにストレッチャーを挿入するとブレーキが作動してコラムが固定されます。

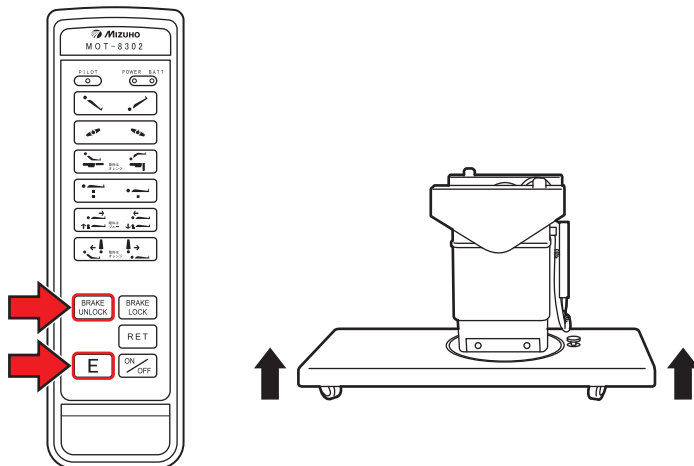
■ コラムの固定を解除する



患者を乗せた状態でコラムの固定を解除しないでください。患者が転落するおそれがあります。

1. [E] を押しながら [BRAKE UNLOCK] を1秒以上押します。

ブレーキが解除されてコラムの固定が解除されます。コラムを移動できます。



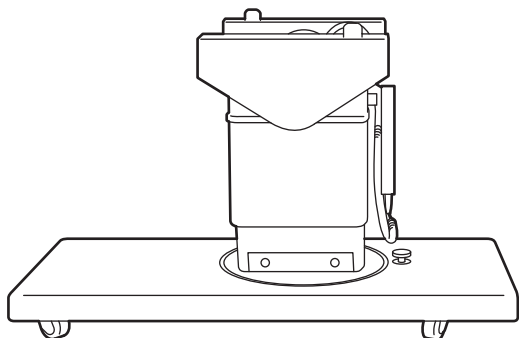
5.5 テーブルトップの装着／分離

■ テーブルトップを装着する

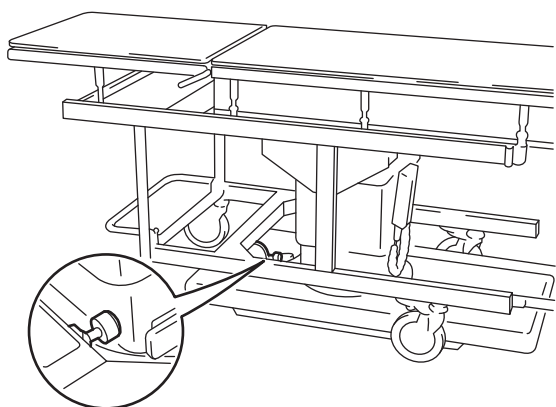


操作ボックスのコードをストレッチャーに引っ掛けないでください。コードが引っ張られ破損するおそれがあります。

1. コラムを固定します。

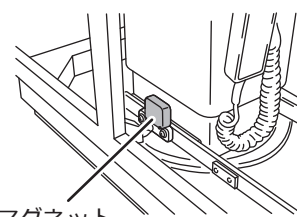


2. コラムのガイドレールに合わせて、ストレッチャーのストッパーがコラムに当たるまで挿入します。

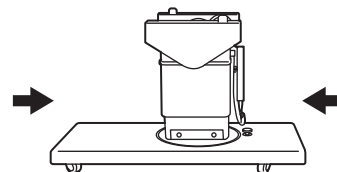


補足

• ストレッチャーが正しく挿入されるとマグネットでコラム内の磁気スイッチが働きます。ストッパーがコラムに当たる前にスイッチの音を確認してください。マグネットの位置がずれていると磁気スイッチは働きません。



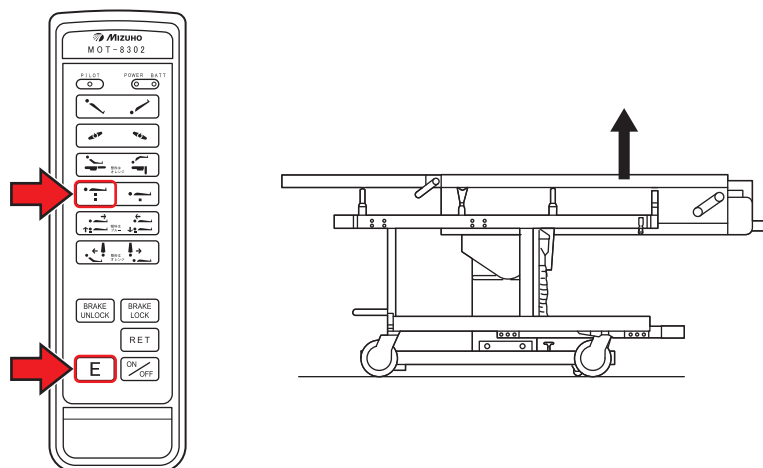
• ストレッチャーはコラムの電源パネル側、回転ロック側のどちらからでも挿入できます。



電源パネル側 回転ロック側

3. 操作ボックスの **E** を押しながら **T** を押して、コラムを上昇させます。

テーブルトップがコラムに装着されます。

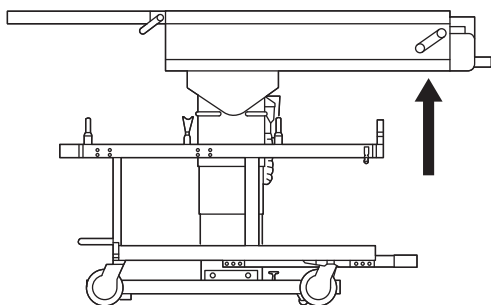


補足

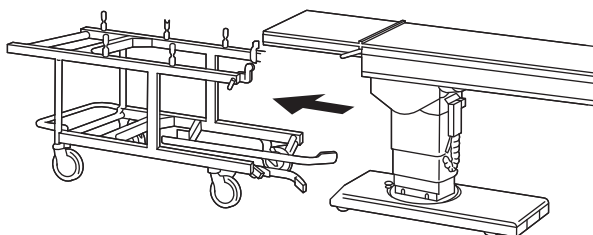
- テーブルトップがコラムに装着されるとロック機能が働きます。ロック機能が働く間コラムは停止しますが、上昇スイッチは押し続けてください。ロック完了後、テーブルトップを装着した状態のコラムが上昇します。
- ストレッチャーを挿入してから引き抜くまでは、昇降以外は作動しません。

4. テーブルトップを装着したコラムが、最高位になるまで上昇します。

最高位に達すると「ピッ」と音が鳴ります。



5. ストレッチャーをコラムから引き抜きます。

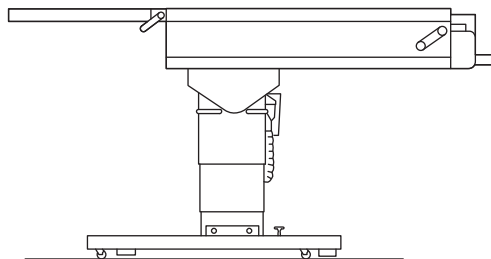
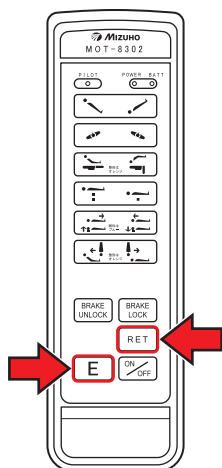


■ テーブルトップを分離する



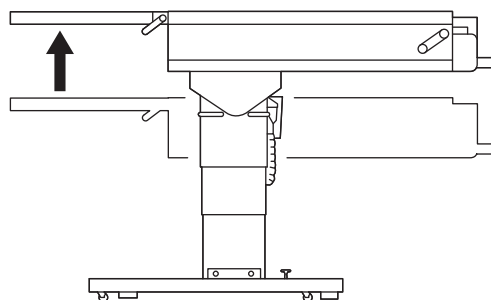
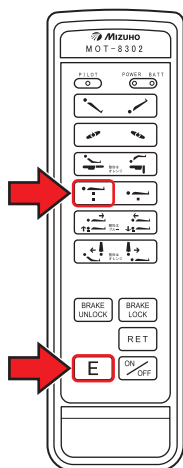
- 操作ボックスのコードをストレッチャーに引っ掛けな
いでください。コードが引っ張られ破損するおそれ
があります。
- レール受の位置にあるアクセサリは取り外す、また
はレール受の位置からずらしてください。アクセサリ
がレール受に当たり破損するおそれがあります。

1. 操作ボックスの **E** を押しながら **RET** を押して、テー
ブルトップを水平位にします。



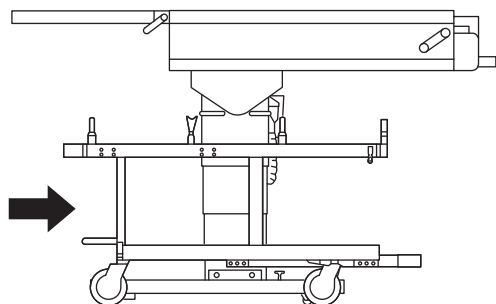
2. 操作ボックスの **E** を押しながら **T** を押して、テー
ブルトップが最高位になるまで上昇させます。

最高位に達すると「ピッ」と音が鳴ります。



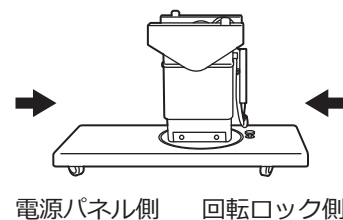
3. コラムのガイドレールに合わせて、ストレッチャーのストッパーがコラムに当たるまで挿入します。

テーブルトップの水平が不完全であれば、もう一度水平復帰が働きます。




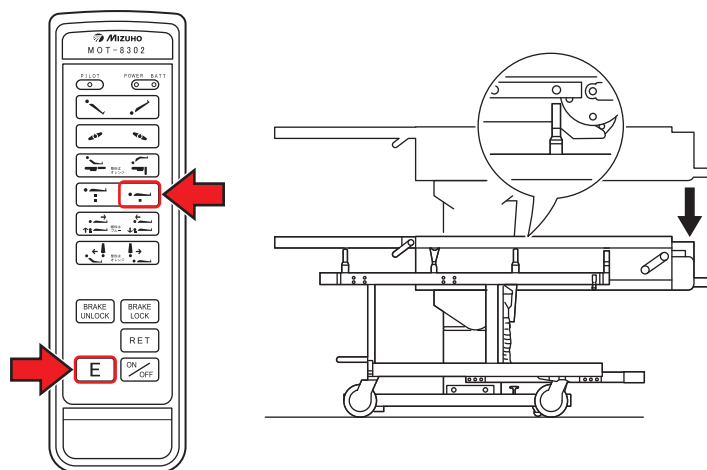
補足

ストレッチャーはコラムの電源パネル側、回転ロック側のどちらからでも挿入できます。



電源パネル側 回転ロック側

4. 操作ボックスの **E** を押しながら  を押して、テーブルトップがストレッチャーのレール受手前で停止するまで下降させます。

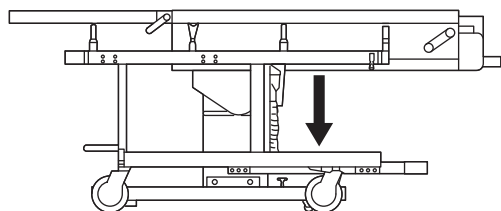


補足

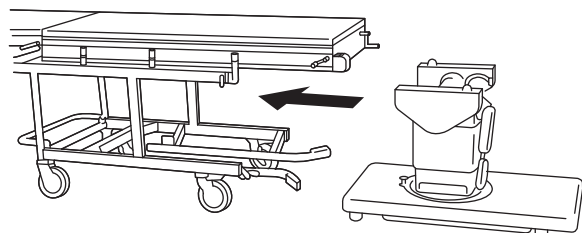
レール受手前で停止するとロック解除が働きます。ロック解除が働く間コラムは停止しますが、下降スイッチは押し続けてください。ロック解除完了後、テーブルトップを分離したコラムが下降します。

5. テーブルトップを分離したコラムが最低位になるまで下降します。

最低位に達すると「ピッ」と音が鳴ります。



6. ストレッチャーをコラムから引き抜きます。




5.6 テーブルトップを横に傾ける（横転）

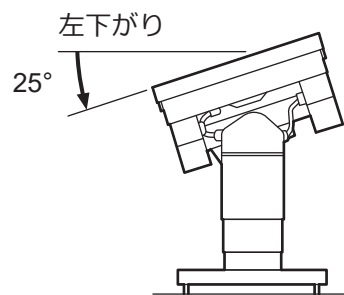
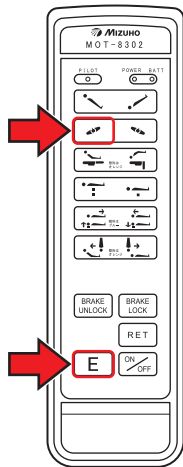


患者を乗せて横転操作をするときは、必ず弊社手術台アクセサリーの固定器を使用してください。患者が転落するおそれがあります。

■ 左に下げる

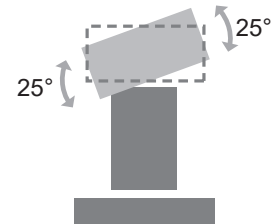
1. **E** を押しながら  を押します。

テーブルトップが頭側から見て左下がりの位置になります。




補足

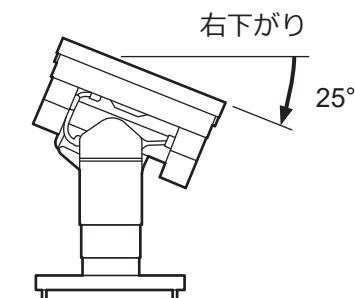
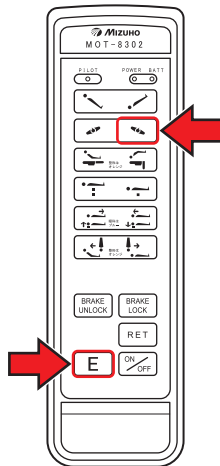
左下がりの最大角度は水平位置から25度です。



■ 右に下げる

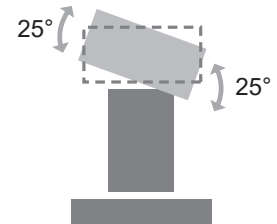
1. **E** を押しながら  を押します。

テーブルトップが頭側から見て右下がりの位置になります。



補足

右下がりの最大角度は水平位置から25度です。



5.7 テーブルトップを縦に傾ける（縦転）



患者を乗せて縦転操作をするときは、必ず弊社手術台アクセサリーの固定器を使用してください。患者が転落するおそれがあります。

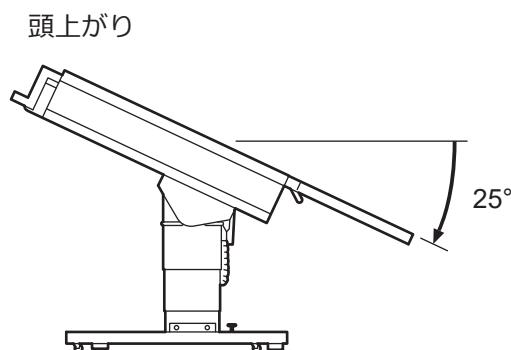
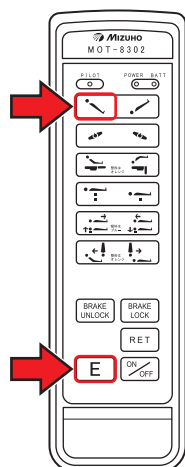
■ 頭を上げる



- 脚板先端が床に接触するまで作動させないでください。破損するおそれがあります。
- 脚板を屈折させた状態で縦転頭上りを作動させないでください。脚板先端がベースにぶつかり、破損するおそれがあります。

1. **E** を押しながら を押します。

テーブルトップが頭上りの位置になります。



補足


頭上りの最大角度は水平位置から25度です。



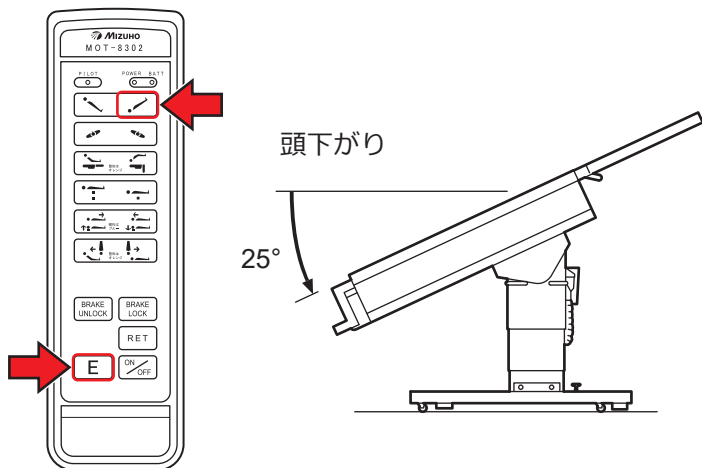
■ 頭を下げる



頭部板先端が床やベースに接触するまで作動させないでください。破損するおそれがあります。

1. **E** を押しながら  を押します。

テーブルトップが頭下がりの位置になります。



補足

頭下がりの最大角度は水平位置から25度です。



5.8 テーブルトップの高さを変える

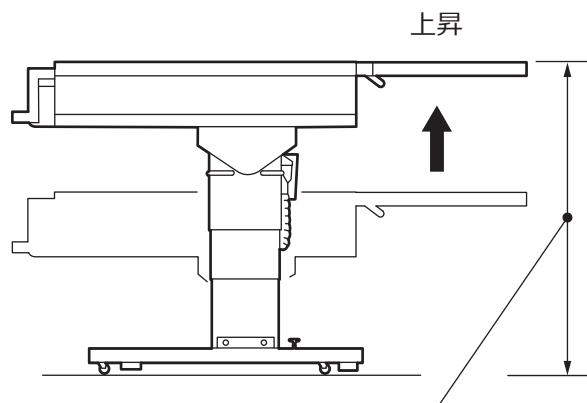
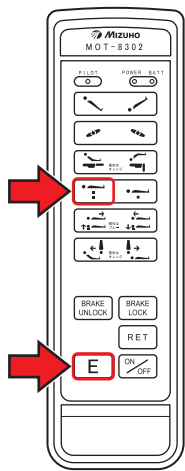


- 脚板を90度屈折させた状態で下降させないでください。脚板先端が床やベースにぶつかり、破損するおそれがあります。
- 脚板を屈折させた状態で下降させるときは、脚板先端が床に接触するまで作動させないでください。破損するおそれがあります。

■ テーブルトップを上げる

1. **E** を押しながら **T** を押します。

テーブルトップが上昇します。



1170mm(移動式コラム使用時)
1070mm(移動式コラム-50使用時)

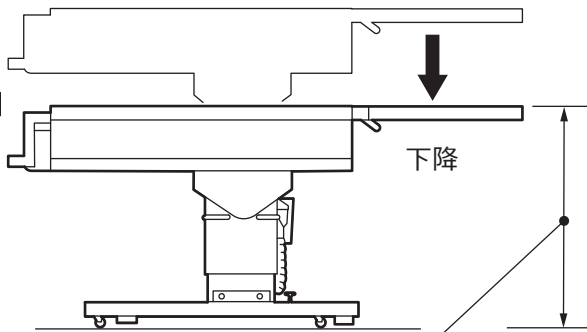
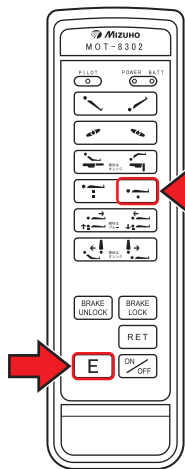
補足

上昇の最高位は床面からテーブルトップ上面まで1170mm(移動式コラム使用時)または1070mm(移動式コラム-50使用時)です。

■ テーブルトップを下げる

1. **E** を押しながら **↓** を押します。

テーブルトップが下降します。



800mm(移動式コラム使用時)
750mm(移動式コラム-50使用時)

補足


下降の最低位は床面からテーブルトップ上面まで800mm(移動式コラム使用時)または750mm(移動式コラム-50使用時)です。

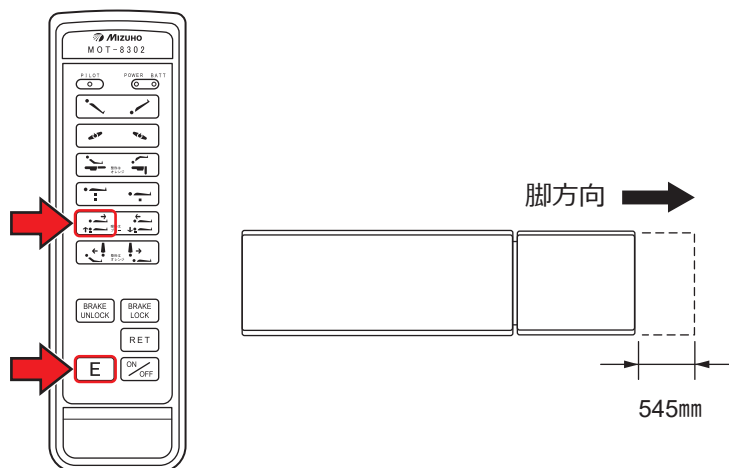
5.9 テーブルトップをスライドさせる



操作中、作動域に手を入れないでください。けがをするおそれがあります。

■ 脚方向に動かす


1. **E** を押しながら  を押します。
テーブルトップが脚方向にスライドします。

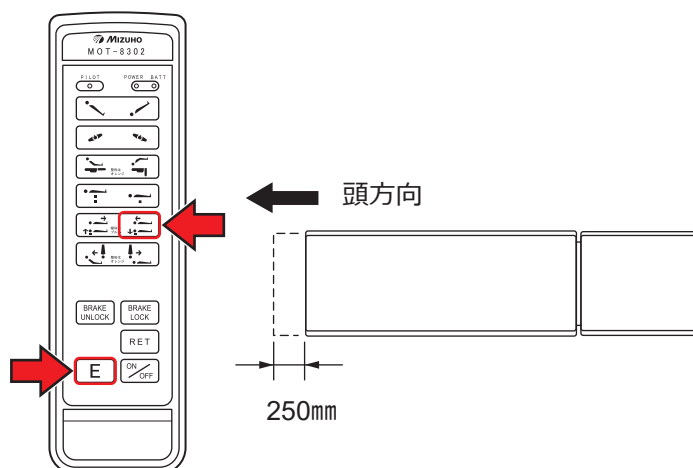


補足

脚方向への最大スライド量は
テーブルトップ中点位置から
545mm です。

■ 頭方向に動かす

1. **E** を押しながら  を押します。
テーブルトップが頭方向にスライドします。



補足

頭方向への最大スライド量は
テーブルトップ中点位置から
250mm です。

5.10 自動水平復帰

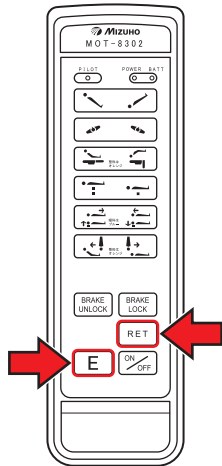
■ テーブルトップを水平位置に戻す

1. **E** を押しながら **RET** を押します。

縦転・横転およびスライドが作動して、テーブルトップが水平位置に戻ります。

補足

昇降およびブレーキの機能は作動しません。



5.11 コラムの回転

■ コラムを回転させる

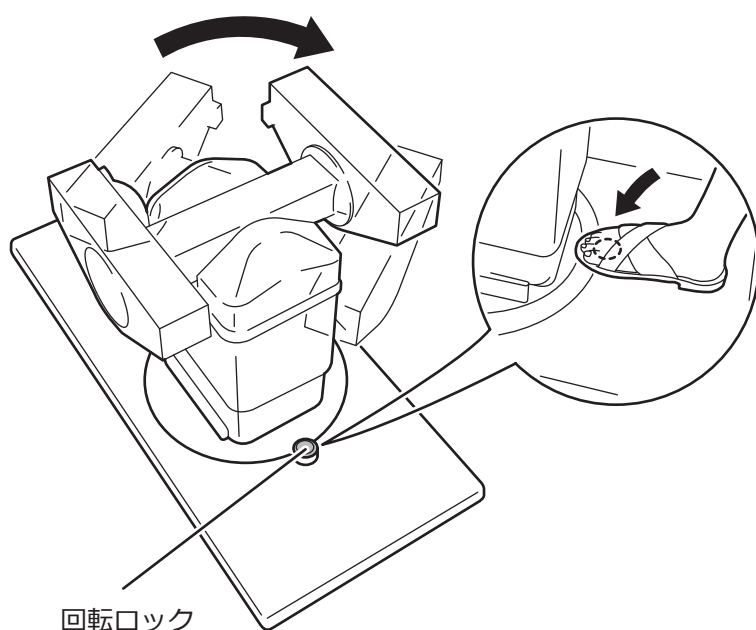


- 患者を乗せたままテーブルトップを回転しないでください。患者が転落するおそれがあります。
- 180度以外（45度・90度など）では使用しないでください。患者が転落するおそれがあります。

1. 回転ロックを踏みながら、時計方向に回転させます。
ロックが解除され「ピッピッ」とロック解除音が鳴ります。
2. 回転ロックから足を離してもロック解除音が鳴り続けていることを確認し、コラムを180度回転させます。
180度回すとロックが作動し、ロック解除音が停止します。
3. 元の位置に戻すときは、もう一度回転ロックを踏みながら、反時計方向に回転させます。

補足

ロック解除音は、回転ロックを踏んでいる間、またはロックが解除されている間（0度または180度以外の位置）鳴り続けます。

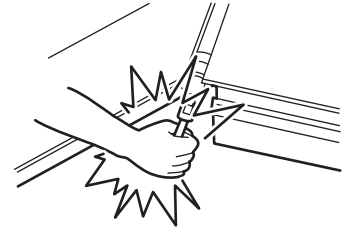


5.12 脚板の調節

脚板は屈折することができます。また、取り外すことができます。



- 脚板重量は 10kg あるため取扱いに注意してください。落下して破損・けがをするおそれがあります。
- 脚板固定ハンドルを操作するときは、必ず脚板の先端を持って行う、または 2 人以上で脚板を持って行ってください。脚板が急に動いてけがをするおそれがあります。



■ 屈折させる

脚板は下に最大 90 度屈折します。

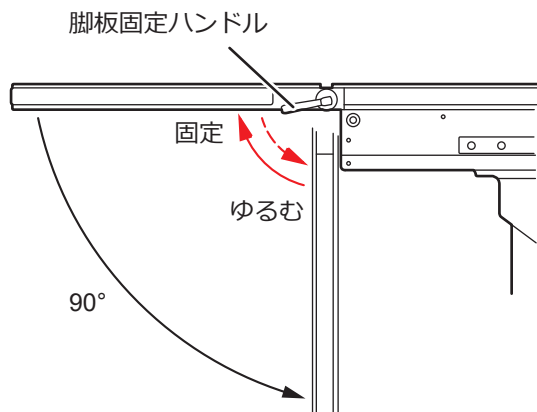


脚板固定ハンドルは必ず締めてください。ゆるんだ状態では脚板が動いて患者に障害がおきるおそれがあります。



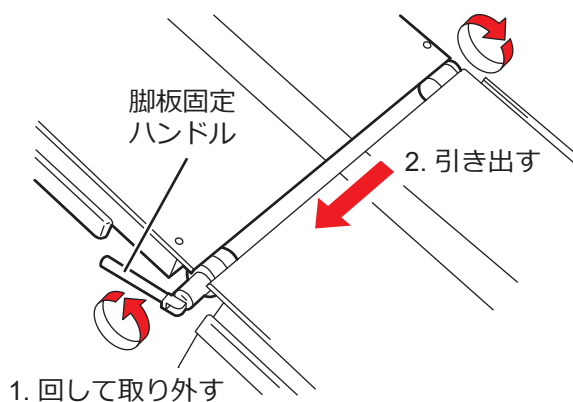
脚板を屈折させた状態で縦転頭上がりを作動させないでください。脚板先端がベースにぶつかり、破損するおそれがあります。

1. 脚板の脚側先端を持ち、左右の脚板固定ハンドルを回してゆるめます。
2. 脚板を屈折させます。
3. 設定する位置で脚板固定ハンドルを回して固定します。



■ 取り外す

1. 脚板の脚側先端を持ち、左右の脚板固定ハンドルを回して取り外します。
2. 脚板の両側をしっかりと持って、矢印の方向に引き出します。

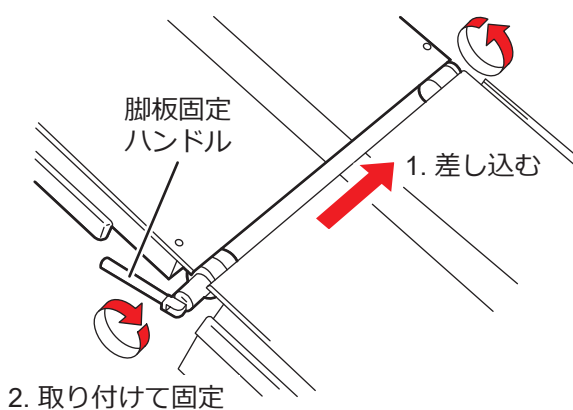


■ 取り付ける



脚板固定ハンドルは必ず締めてください。ゆるんだ状態では脚板が動いて患者に障害がおきるおそれがあります。

1. 脚板の両側をしっかりと持って、脚板の差込軸と差込孔を腰板の差込孔と差込軸に合わせて差し込みます。
2. 脚板の脚側先端を持ち、左右の脚板固定ハンドルを取り付けて固定します。



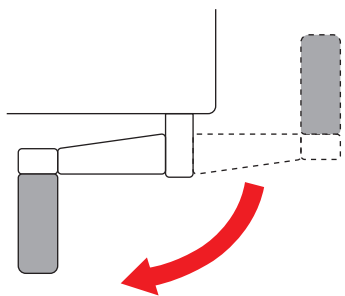
5.13 腹部挙上

■ 腹部挙上させる



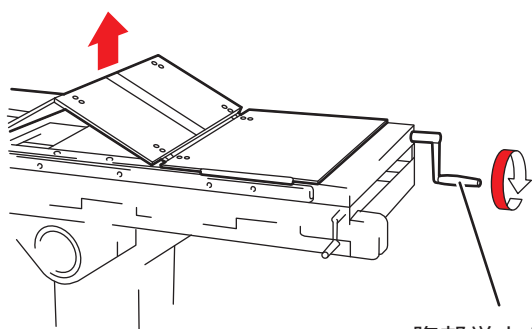
作動中、フレームの隙間部分に手を入れないでください。
けがをするおそれがあります。

1. 腹部挙上ハンドルをテーブルトップ正面側に引き出します。



2. 腹部挙上ハンドルを時計方向に回します。

胸板と腹板が屈折しながら上昇します。



腹部挙上ハンドル

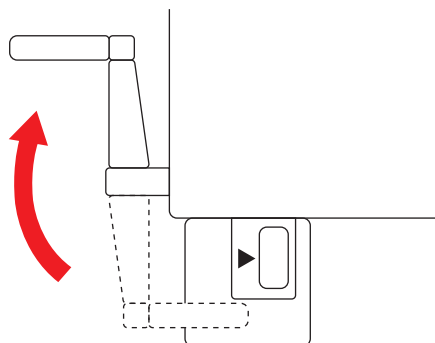
補足

腹部挙上ハンドルはハンドルをテーブルトップと水平状態にすると持ち手部分を任意の向きに変えることができます。

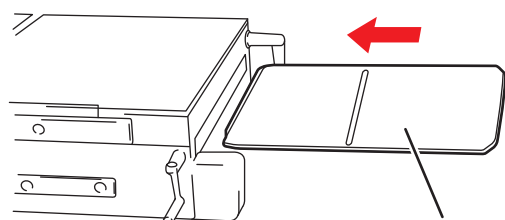
5.14 カセット移動板

■ カセット移動板

1. カセット移動ハンドルをサイドレール側に引き出します。

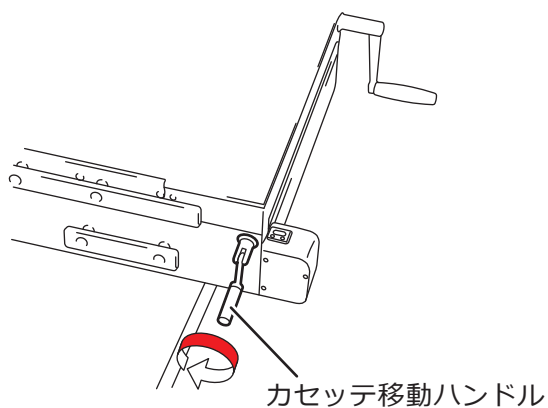


2. カセット移動板にカセットを載せて、マグネットに当たるまで差し込みます。



カセット移動板

3. カセット移動ハンドルを時計方向に回すと脚板側に移動します。反時計方向に回すと頭部板側に移動します。
カセット移動板の位置は、カセット移動メーターとスケールで判断します。



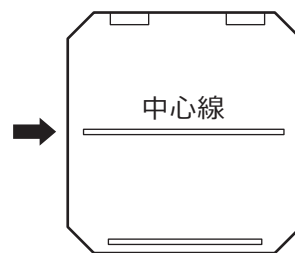
カセット移動ハンドル

補足

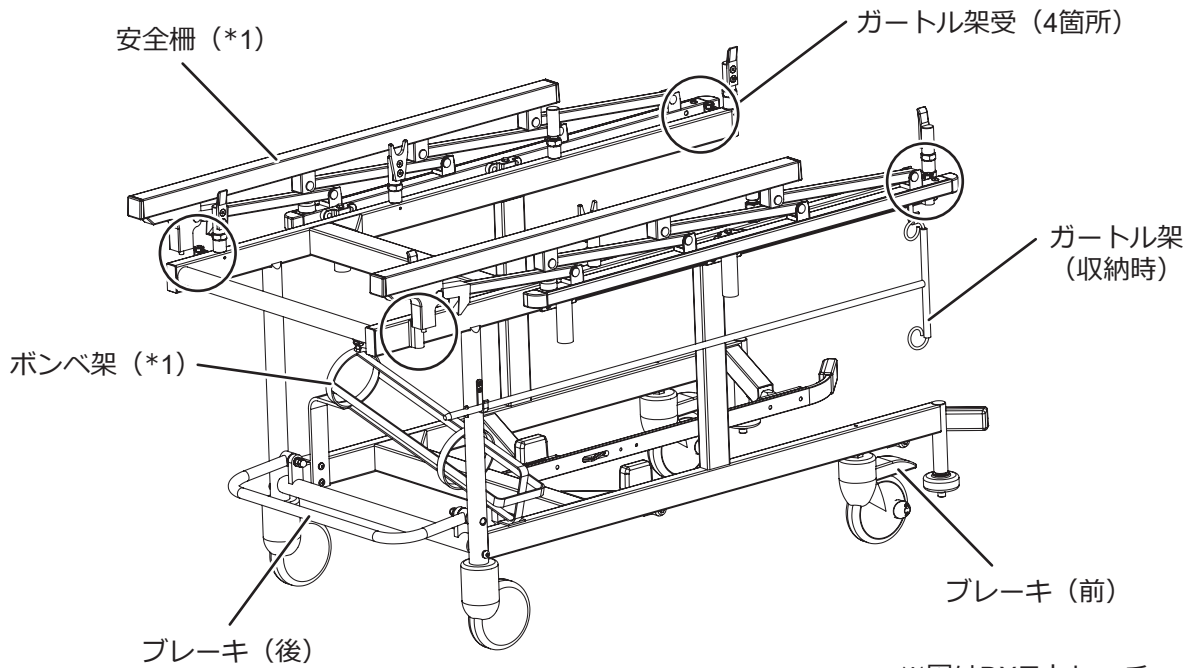
カセット移動ハンドルはハンドルをテーブルトップと水平状態にすると持ち手部分を任意の向きに変えることができます。

補足

- カセットは下記のサイズが使用できます。
大角用／大陸用／四つ切用／六つ切り用
- カセット移動メーターはカセット移動板の中心線の位置を指します。



5.15 ストレッチャーの機能



※図はDXストレッチャー

*1: 安全柵およびポンベ架はDXストレッチャーに装着

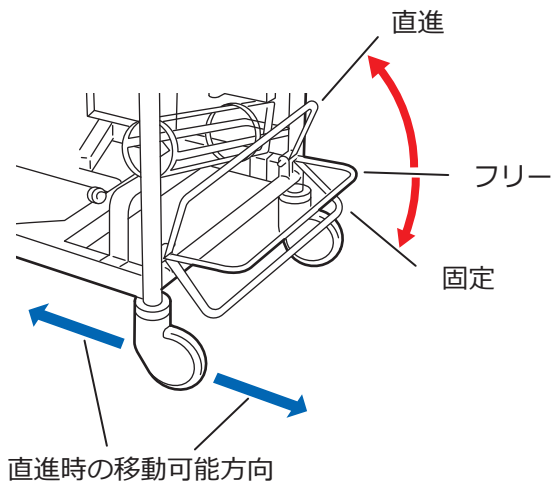
■ ブレーキ (前)

ストレッチャーの固定・固定解除ができます。



■ ブレーキ (後)

ストレッチャーの固定・フリー移動・直進が切り替えられます。

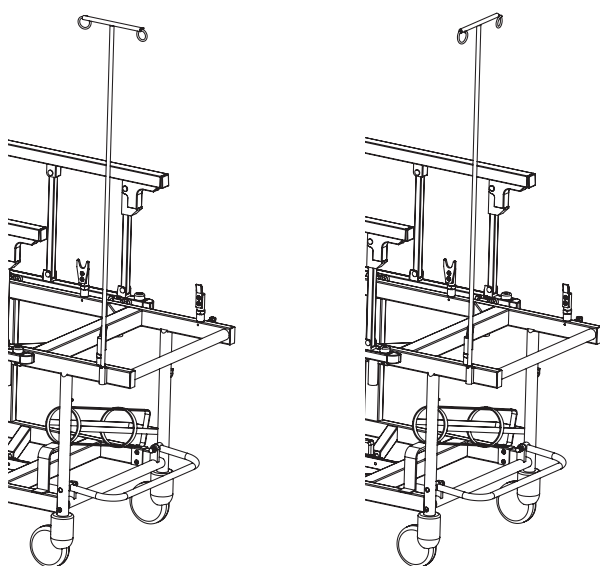


補足

直進は、ストレッチャー本体の長手方向 (→) にのみ移動が可能です。

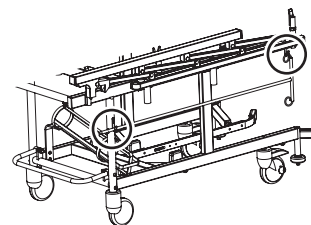
■ ガートル架

必要に応じて、付属のガートル架を取り付けることができます。



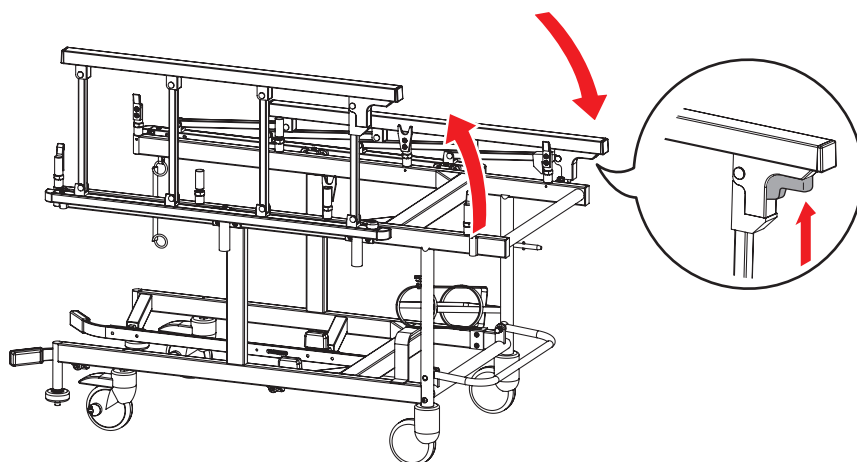
補足

- ガートル架受はストレッチャーの前後左右4箇所にあります。
- 使用しないときはストレッチャー本体側面のフックにかけて収納してください。



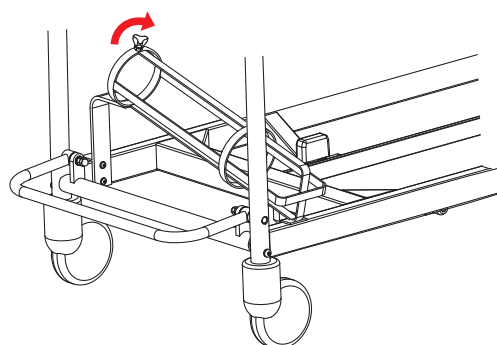
■ 安全柵 (DX ストレッチャーのみ)

レバーを握りながら操作することで、安全柵を立てたり、折りたたんだりすることができます。



■ ボンベ架 (DX ストレッチャーのみ)

ボンベをボンベ架に挿入し、ノブネジを締めて固定します。



補足

直径 95 ~ 105mm の医療用ボンベに対応しています。

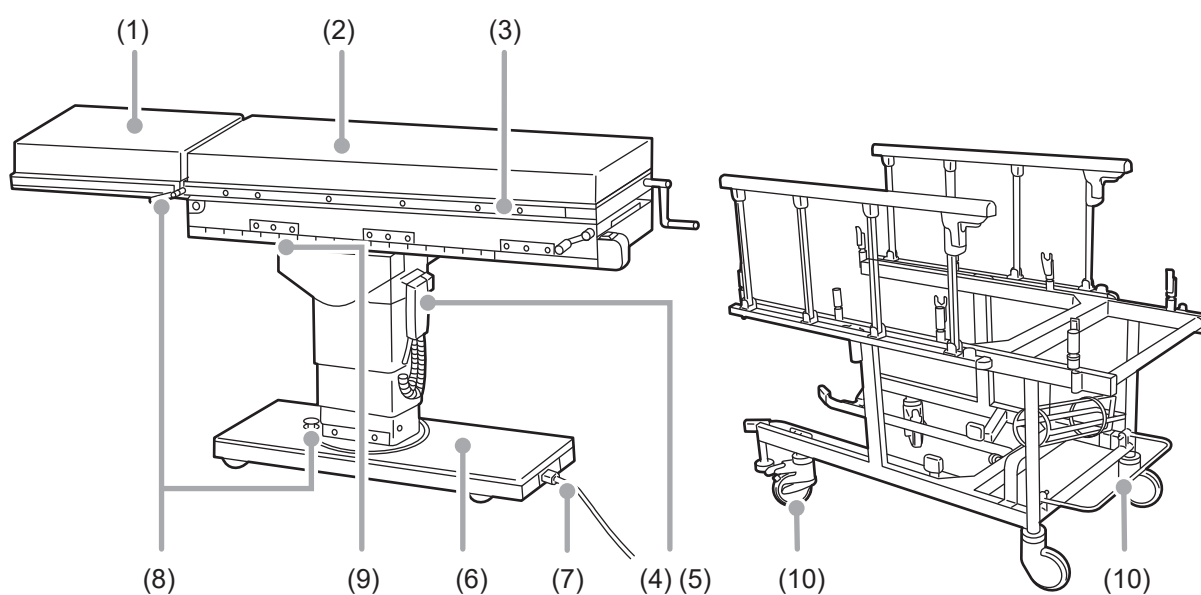
6章 保守と点検

6.1 使用前・使用後の点検



手術台の使用前および使用後は必ず点検事項を確認し、異常がある場合はご購入店または弊社に修理を依頼してください。手術に支障が生じるおそれがあります。

下記の事項を点検して、異常があればご購入店または弊社に修理を依頼してください。



(1) マットレス

● 使用前

すべてのマットレスに破損がないか。

● 使用後

すべてのマットレスに破損または汚れがないか。

(2) テーブルトップのガタ

● 使用前

本体両側を持って上下左右に揺すったときにガタがないか。

(3) テーブルトップ

● 使用前

すべてのテーブルトップに破損がないか。

● 使用后

すべてのテーブルトップに破損または汚れがないか。

(4) 操作ボックスおよびコードレス操作ボックス

● 使用前

操作ボックスおよびコードレス操作ボックスのスイッチを押して、すべての機能が正常に作動するか。

(5) 電源 ON/OFF スイッチ

● 使用前

操作ボックスの電源 ON/OFF スイッチを押して、操作ボックスのパワーランプが点灯するか。

(6) バッテリー

● 使用前

バッテリーが充電されているか。

(7) 電源コードおよびプラグ

● 使用前

導線の露出またはプラグの破損がないか。

(8) 手動操作部

● 使用前

脚板・コラム回転等の手動機能が正常に操作できるか。

(9) 分離・装着

● 使用前

テーブルトップとコラムの分離・装着が確実にできるか。

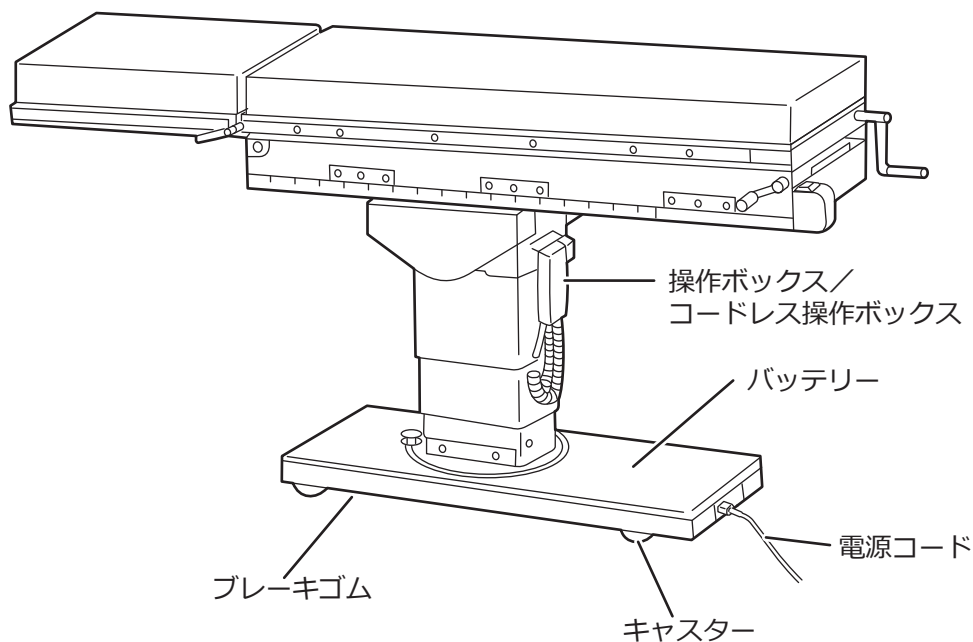
(10) ストレッチャー

● 使用前

ストレッチャーの直進・フリー・固定およびキャスターのフリー・固定が確実にできるか。

6.2 定期交換部品

安全に使用していただくために、下記の部品を定期的に交換することを弊社で設定しております。交換時期は目安です。使用の状況または使用頻度によっては、早期に部品交換が必要となる場合があります。交換にあたっては、ご購入店または弊社に依頼してください。



| 部品名 | 交換時期 |
|-------------|------|
| バッテリー | 2年 |
| 操作ボックス | 4～6年 |
| コードレス操作ボックス | 4～6年 |
| キャスター | 5～7年 |
| ブレーキゴム | 3～5年 |
| 電源コード | 5～7年 |

補足

左記は目安の期間です。使用条件により交換時期が異なる場合があります。

6.3 ソフトウェアのバージョン情報

手術台に搭載されている制御ソフトウェアのバージョン情報は、基板に実装されているマイクロコンピュータ上に直接貼付されているラベルで確認することが可能です。



ソフトウェア・バージョン情報は、主にサービスマン、メンテナスマンが必要に応じてアクセスします。確認するためにはベースカバーを開け、制御基板にアクセスする必要があります。

7 章 仕様

7.1 仕様表

| | | | | |
|----------------|----------------|-------------------|---|--|
| 販売名 | | 手術台 MOT-8302 | | |
| 分類 | 製造販売届出番号 | 13B1X00306N10281 | | |
| | 類別 | 器 01 手術台及び治療台 | | |
| | 一般的名称・JMDN コード | 手術台システム 37325000 | | |
| | クラス分類 | 一般医療機器 特定保守管理医療機器 | | |
| 商品名 | | 18-461-00 | MOT-8302 移動式コラム | |
| | | 18-461-01 | MOT-8302 移動式コラム -50 | |
| | | 18-462-12 | MOT-8302 透視テーブル | |
| | | 18-464-01 | MOT-8302 用 ストレッチャー | |
| | | 18-464-02 | MOT-8302 用 DX ストレッチャー | |
| 電動 | 昇降範囲 | 最高位 | 1170mm : 注 1 1070mm : 注 2 | |
| | | 最低位 | 800mm : 注 1 750mm : 注 2 | |
| | 縦転角度 | 頭上がり | 25° | |
| | | 頭下がり | 25° | |
| | 横転角度 | 左下がり | 25° | |
| | | 右下がり | 25° | |
| | スライド量 | 頭方向 | 250mm | |
| | | 脚方向 | 545mm | |
| | 自動水平復帰 | 縦転/横転/スライド | | |
| | ブレーキ | 固定/解除 | | |
| | 操作機器 | 操作ボックス | 昇降、縦転、横転、スライド、水平復帰、ブレーキ、E スイッチ、電源 ON/OFF スイッチ | |
| | | コードレス操作ボックス | 昇降、縦転、横転、スライド、水平復帰、ブレーキ、電源 ON/OFF スイッチ | |
| フットスイッチ : 注 13 | | 昇降、縦転、横転 | | |
| 緊急停止スイッチ | | 停止 | | |
| 手動 | 脚板屈折角度 | 下がり | 90° | |
| | 腹部拳上 | 上がり | 150mm | |
| | カセット移動 | 移動量 | 1510mm | |
| | 取り外し | 脚板 | | |
| | コラム回転角度 | 時計方向 | 180° | |

| | | |
|---|-------------------|---|
| 電 氣 的 定 格 | JIS T0601-1 による分類 | クラス I 機器 (内部電源機器：注 3) / B 形装着部 / IPX4 |
| | 定格電源電圧 | AC100V |
| | 定格電源周波数 | 50-60Hz |
| | バッテリー電源電圧 | DC24V |
| | バッテリー充電時間 | 最長 20 時間 (満充電した場合の累積作動時間：最大 60 分：注 14) |
| | 消費電力 | 250VA |
| | 作動電圧 | DC24V |
| | 作動時間 (1 回あたり) | 3 分 ON、3 分 OFF：注 4 |
| | その他 | 除細動器からの回復 5 秒以内 本製品は EMC 規格 JIS T0601-1-2：2018 に適合 |
| 寸 法 | 透視テーブル | 1910mm (長) × 500mm (幅) × 180mm (高)：注 5 |
| | 移動式コラム | 1023mm (長) × 463mm (幅)：注 6 |
| | ストレッチャー | 1060mm (長) × 572mm (幅) × 652mm (高)：注 6 |
| 質 量 | 移動式コラム | 240kg |
| | 移動式コラム -50 | 230kg |
| | 透視テーブル | 81kg |
| | ストレッチャー | 45kg |
| | DX ストレッチャー | 47kg |
| 総 重 量 … 注 7 | 移動式コラム | 321kg (テーブル質量：81kg + 移動式コラム質量：240kg) |
| | 移動式コラム -50 | 311kg (テーブル質量：81kg + 移動式コラム -50 質量：230kg) |
| | ストレッチャー | 261kg (許容患者体重：135kg + テーブル質量：81kg + ストレッチャー質量：45kg) |
| | DX ストレッチャー | 263kg (許容患者体重：135kg + テーブル質量：81kg + DX ストレッチャー質量：47kg) |
| 許容患者体重：注 12 | | 昇降：135kg / 昇降以外の作動：135kg |
| 通過可能高さ・幅 | | 高さ：10mm / 幅：80mm：注 8 |
| 使 用 環 境 | 周囲温度範囲 | 10℃～40℃：注 11 |
| | 相対湿度範囲 | 30%～75%：注 11 |
| | 気圧範囲 | 700hPa～1060hPa：注 11 |
| | その他 | 標高 3000 m 以下で使用：注 11 |
| 保 輸 管 送 条 件 お よ び | 周囲温度範囲 | -10℃～50℃：注 9 |
| | 相対湿度範囲 | 10%～85% (結露なし)：注 9 |
| | 気圧範囲 | 700hPa～1060hPa：注 9 |
| 耐用期間 | | 指定した保守点検および適切な保管をした場合 10 年：注 10 |

注 1：移動式コラム使用時

注 3：バッテリー電源使用時

注 5：サイドレール部を除く

注 7：移動時

注 9：弊社基準

注 11：JIS T0601-1 医用電気機器－第 1 部：基礎安全及び基本性能に関する一般要求事項：2017

注 12：患者体重およびアクセサリーの合計

注 14：使用状況による

注 2：移動式コラム -50 使用時

注 4：手術台の 1 回あたりの作動時間と休息时间

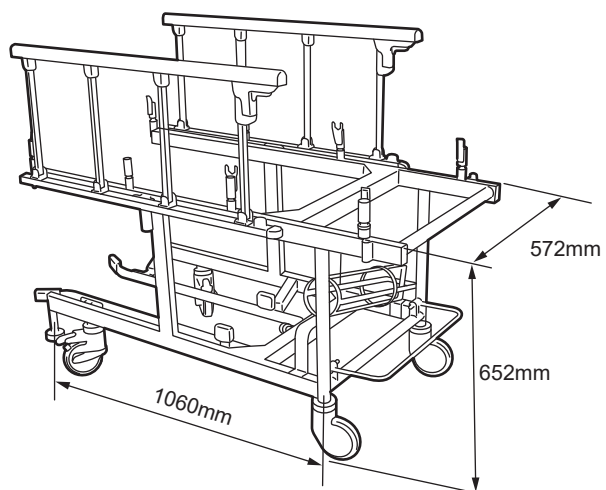
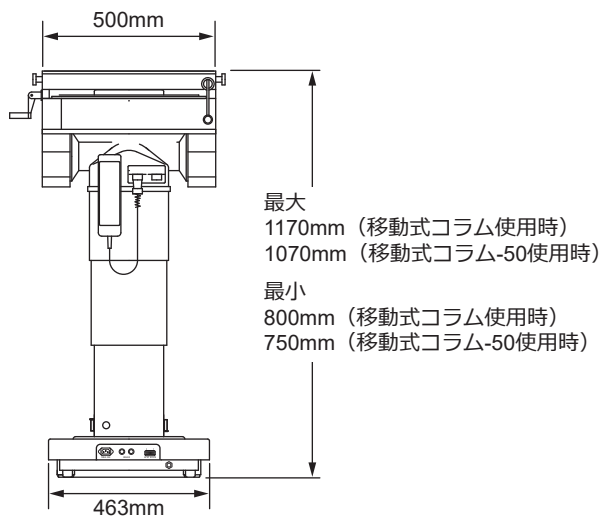
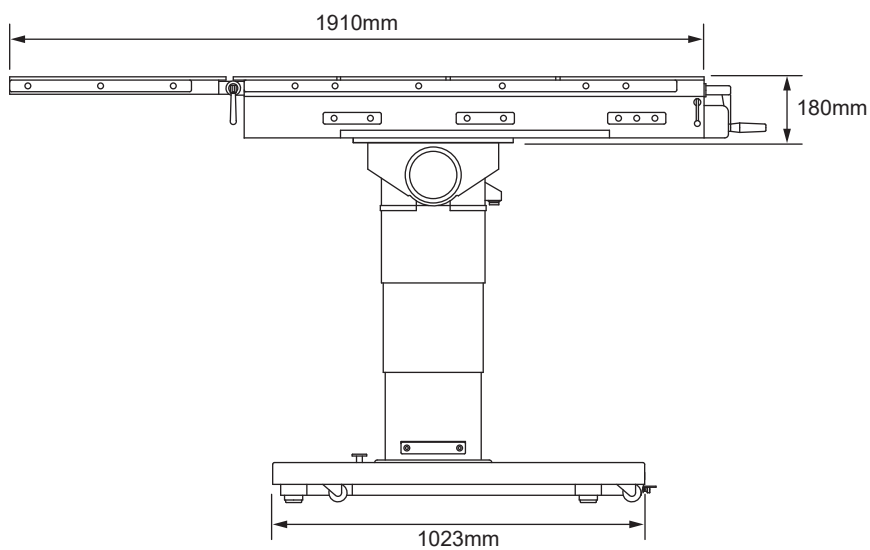
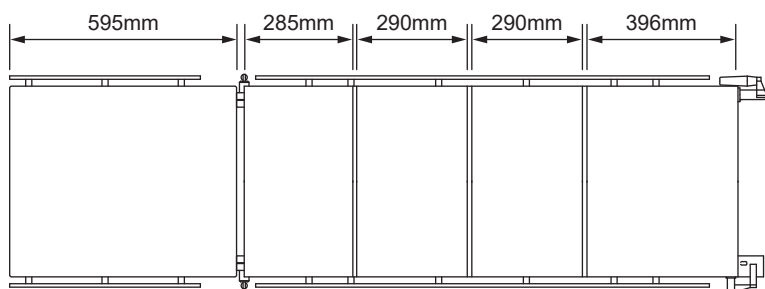
注 6：概略寸法

注 8：電源パネル側のみ通過可能

注 10：自己認証 (弊社データ) による

注 13：オプション

7.2 外観図



8 章 修理を依頼する前に

■ 原因・対策を確認する

以下の状態は故障ではない場合があります。修理を依頼する前にもう一度原因・対策を確認してください。

| 状態 | 考えられる原因 | 対策 |
|--|--------------------------------|---|
| 電源が入らない | 電源コードのプラグを差し込んでいない | 電源コードを差し込んでください (→ P.24) |
| | 操作ボックスのコネクタを完全に差し込んでいない | コネクタを完全に差し込んでください (→ P.22) |
| | バッテリーの容量が低下している | バッテリーを充電してください (→ P.21) |
| 操作ボックスの機能スイッチを押しても作動しない | 操作ボックスのコネクタを完全に差し込んでいない | コネクタを完全に差し込んでください (→ P.22) |
| | 機能スイッチと同時に E スイッチを押していない | E スイッチを押しながら機能スイッチを押してください (→ P.27 ~ P.37) |
| 装着のときストレッチャーをコラムに挿入して、スイッチを押してもコラムが上昇しない | ストレッチャーのストッパーがコラムに当たるまで挿入していない | ストレッチャーを正しく挿入してください (→ P.28) |
| | ストレッチャーのマグネットが正しい位置にない | ストッパーがコラムに当たる前に磁気スイッチが働く音を確認してください (→ P.28) |
| 分離のときストレッチャーをコラムに挿入しても水平復帰しない | ストレッチャーのストッパーがコラムに当たるまで挿入していない | ストレッチャーを正しく挿入してください (→ P.28) |
| | ストレッチャーのマグネットが正しい位置にない | ストッパーがコラムに当たる前に磁気スイッチが働く音を確認してください (→ P.28) |
| バッテリーインジケータが赤点減している | バッテリーが満充電の状態 | 1. 電源コードを抜き、バッテリー電源で昇降を操作した後に、電源スイッチを入れ直してください (→ P.25、P.35) 2. 電源スイッチを切り、バッテリー電源で昇降を操作した後に、電源スイッチを入れ直してください (→ P.25、P.35) |
| | 1. または 2. の対策を行っても状態が改善されない場合 | |
| | バッテリーのヒューズが切れている | ご購入店または弊社に修理を依頼してください |

上記の対策を行っても状態が改善されない場合は、ご購入店または弊社に修理を依頼してください。

■ 修理が必要な場合



- 修理は弊社および弊社が認めた業者が行います。必ずご購入店または弊社に修理を依頼してください。
- 分解しないでください。火災・感電・故障の原因になります。
- 感染防止のため、修理を依頼するときは必ず手術台の清掃および消毒をしてください。

以下の状態は修理が必要です。ご購入店または弊社に修理を依頼してください。

| 状態 | 考えられる原因 |
|---|---|
| 電源を入れるとき | |
| 電源プラグを差し込み、操作ボックスの電源 ON/OFF スイッチを押しても電源が入らない | <ol style="list-style-type: none"> 1. 電源用ブレーカーの作動 2. 電源コードの断線 3. 操作ボックスの作動不良 4. 内部コネクタ・配線の断線 |
| 操作ボックスの固定・移動スイッチを押しても作動しない | <ol style="list-style-type: none"> 1. 操作ボックスの作動不良 2. 固定・移動リミットスイッチの故障、調整不良 3. モーターの過電流保護回路の作動 4. 固定・移動ユニットの故障 |
| テーブルトップとコラムを装着するとき | |
| テーブルトップを載せたストレッチャーを挿入し、上昇スイッチを押しても上昇しない | <ol style="list-style-type: none"> 1. 操作ボックスの作動不良 2. ストレッチャーが正常な位置まで入っていない 3. モーターの過電流保護回路の作動 4. 昇降ユニットの故障 |
| テーブルトップとコラムが装着できない | |
| <ul style="list-style-type: none"> • ロック用のモーターが作動しないとき | <ol style="list-style-type: none"> 1. ロック完了スイッチの作動不良 2. ロックユニットの故障 3. ロック用スイッチの作動不良 |
| <ul style="list-style-type: none"> • ロック用のモーターが作動しているとき • 回転方向は合っているがネジが駆動体の受けネジへ入らない | <ol style="list-style-type: none"> 1. ロックネジの回転異常 1. ロックネジ支えピンの作動不良 |
| テーブルトップとコラムがロックされているが上昇しない | <ol style="list-style-type: none"> 1. ロック完了のリミットスイッチの作動不良 2. ロック確認スイッチの作動不良 |
| テーブルトップとコラム装着後の作動 | |
| 各作動不良 (昇降、縦転、横転、スライド) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 操作ボックスの作動不良 2. 各作動のリミットスイッチの調整不良 3. 各作動ユニットの故障 4. モーターの過電流保護回路の作動 |
| 水平復帰ができない | <ol style="list-style-type: none"> 1. 操作ボックスの作動不良 2. 各作動の水平復帰スイッチの調整不良 3. 各作動ユニットの故障 |

| 状態 | 考えられる原因 |
|---|--|
| テーブルトップとコラムを分離させるとき | |
| ストレッチャー（テーブルトップが載っていない）をコラムに挿入したとき水平復帰しない | 1. 磁気近接スイッチの故障 |
| テーブルトップを下降させたときテーブルトップとコラムのロック外しができない ・ロック用のモーターがロック外しの作動をしない ・ロックモーターが作動し、ロックが外れモーターが停止したがコラムが下降しない ・ロックモーターが作動し、ロックが外れてもモーターが停止しない | 1. 磁気近接スイッチの故障 2. 中点位スイッチの故障 3. ロック外し完了スイッチの作動不良 4. ロックユニットの故障 5. ロックネジの回転異常 1. ロック外し完了スイッチの作動不良 2. モーターの過電流保護回路の作動 1. ロック外し完了スイッチの作動不良 |
| その他 | |
| テーブルトップ着脱時においてテーブルトップとストレッチャーのレール受と間隔が違いためガタが発生する | 1. ストレッチャーのレール受の高さのずれ発生 |
| モーターの異音発生 | 1. モーターの故障 2. ギアの噛み合い異常 |

■ 故障時の対応

手術台が故障したときは、以下の処置をしてください。

1. 電源を切って、電源コードを医用コンセントから外します。
2. 手術台本体に「故障」・「使用禁止」等の表示をします。

■ 業者による保守点検事項

本機を安全に使用するために、弊社および弊社が認めた業者による年1回の定期点検を実施してください。それ以外の業者による保守・点検は、有害事象の発生、性能・機能の低下を招くおそれがあります。定期点検を希望される場合は、ご購入店または弊社にお問い合わせください。

付録 -1 EMC（電磁両立性）について

本書で示している EMC 情報に従って設置、使用をお願いします。



- 弊社指定の付属品以外は使用しないでください。
エミッションの増加またはイミュニティの低下を招くおそれがあります。
- 他の機器と隣接または積み重ねて使用しないでください。
電磁的干渉により正常に作動しないおそれがあります。
- 併用する他の医用電子機器（特に生命維持装置）は、予め電磁的干渉による誤作動が起きないことを確認の上使用してください。
電磁的干渉により正常に作動しないおそれがあります。

電磁放射に関するガイドラインおよびメーカー適合宣言

MOT-8302 は、以下に指定した電磁的環境内での使用を意図している。MOT-8302 の顧客または使用者は、このような環境内で使用されることを確認することが望ましい。

| 電磁的干渉測定 | 適合性 | 電磁的環境—ガイドライン |
|-------------------------------------|--------|---|
| 高周波放出 IEC 61000-3-2 | クラス A | MOT-8302 は、住宅環境および住宅環境の建物に電力を供給する公共の低電圧配電系に直接接続された施設を除く、すべての施設での使用に適している。 |
| 電圧変動/ フリッカによる放出 IEC 61000-3-3 | 適合 | |
| RF 放射 CISPR11 | クラス A | |
| RF 放射 CISPR11 | グループ 1 | MOT-8302 は、内部機能のためにのみ RF エネルギーを使用している。したがって、近傍の電子機器に対して何らかの干渉を生じさせる可能性は非常に低いものと考えられる。 |


電磁環境耐性に関するガイドラインおよびメーカー適合宣言

MOT-8302 は、以下に指定した電磁的環境内での使用を意図している。MOT-8302 の顧客または使用者は、このような環境内で使用されることを確認することが望ましい。

| 電磁環境耐性検査 | IEC 60601 検査レベル | 適合性レベル | 電磁的環境—ガイドライン |
|---|---|---|--|
| 静電気放電 (ESD) IEC 61000-4-2 | ± 8 kV 接触放電 ± 2 ; 4 ; 8 ; 15 kV 気中放電 | ± 8 kV 接触放電 ± 2 ; 4 ; 8 ; 15 kV 気中放電 | 床は、木材、コンクリートまたはセラミックタイルであることが望ましい。 床が合成材料で覆われている場合、相対湿度は少なくとも 30% であることが望ましい。 |
| 高速過渡電気障害/ バースト IEC 61000-4-4 | ± 2 kV 電源ライン ± 1 kV 入出カライン | ± 2 kV 電源ライン ± 1 kV 入出カライン | 電源電圧の品質は、標準的な商用または病院環境と同等であることが望ましい。 |
| サージ電圧 IEC 61000-4-5 | ± 0.5 ; 1 kV ノーマルモード電圧 ± 0.5 ; 1 ; 2 kV コモンモード電圧 | ± 0.5 ; 1 kV ノーマルモード電圧 ± 0.5 ; 1 ; 2 kV コモンモード電圧 | 電源電圧の品質は、標準的な商用または病院環境と同等であることが望ましい。 |
| 電圧の降下、短時間 停電および電源電圧 の変動 IEC 61000-4-11 | 0% U_T 0.5 サイクル 0% U_T 1 サイクル 70% U_T 25 / 30 サイクル 0% U_T 250 / 300 サイクル | 0% U_T 0.5 サイクル 0% U_T 1 サイクル 70% U_T 25 / 30 サイクル 0% U_T 250 / 300 サイクル | 電源電圧の品質は、標準的な商用または病院環境と同等であることが望ましい。 MOT-8302 の顧客または使用者が主電源の遮断時にも操作を継続する必要がある場合は、MOT-8302 に無停電電源装置またはバッテリーから電源を供給することが望ましい。 |
| 電源周波数 (50 / 60Hz) 磁界 IEC 61000-4-8 | 30 A/m | 30 A/m | 電源周波数磁界は、標準的な商用または病院環境における一般的な場所と同レベルの特性を持つことが望ましい。 |

注記： U_T は、検査レベル適用前の交流電源電圧である。

電磁環境耐性に関するガイドラインおよびメーカー適合宣言（続き）

| 電磁環境耐性検査 | IEC 60601 検査レベル | 適合性レベル | 電磁的環境—ガイドライン |
|---|---|---|---|
| 放射 RF により誘導された伝導性妨害 IEC 61000-4-6 | 150 kHz ~ 80 MHz 3 V ISM 周波数帯 6 V | 150 kHz ~ 80 MHz 3 V ISM 周波数帯 6 V | 携帯形および移動形 RF 通信機器（アンテナまたはケーブルを含む無線機器）は、MOT-8302 のいかなる部分に対しても、30cm（または 12 インチ）の推奨安全距離より近づけて使用しないことが望ましい。 |
| 放射 RF による干渉 IEC 61000-4-3 | 80MHz ~ 2.7GHz 3V/m ワイヤレス通信 周波数帯 V/m MHz 27 385 28 450 9 710 9 745 9 780 28 810 28 870 28 930 28 1720 28 1845 28 1970 28 2450 9 5240 9 5500 9 5785 | 80MHz ~ 2.7GHz 3V/m ワイヤレス通信 周波数帯 V/m MHz 27 385 28 450 9 710 9 745 9 780 28 810 28 870 28 930 28 1720 28 1845 28 1970 28 2450 9 5240 9 5500 9 5785 | 電磁界の現地調査によって決定する固定 RF 送信機からの電界強度は、各周波数範囲における適合性レベル 3V/m よりも低いことが望ましい。 以下の記号を表示している機器の近傍では干渉が生じる可能性がある。  |
| 注記：このガイドラインはすべての状況に対して適用するものではない。建築物・物・人からの吸収および反射は電磁波の伝搬に影響する。 | | | |
| 例えば、無線（携帯／コードレス）電話および移動式地上無線の基地局、アマチュア無線、AM・FM ラジオ放送および TV 放送のような固定送信機からの電界強度を、正確に理論的に予測をすることはできない。固定 RF 送信機による電磁的環境を確認するためには、電磁界の現地調査を考慮することが望ましい。MOT-8302 を使用する場所において測定した電界強度が上記の適用する RF 適合性レベルを超える場合は、MOT-8302 が正常に作動するかを検証するために監視することが望ましい。異常作動を確認した場合には、MOT-8302 の向きを変える、または位置を動かすなどの追加対策が必要となる。 | | | |

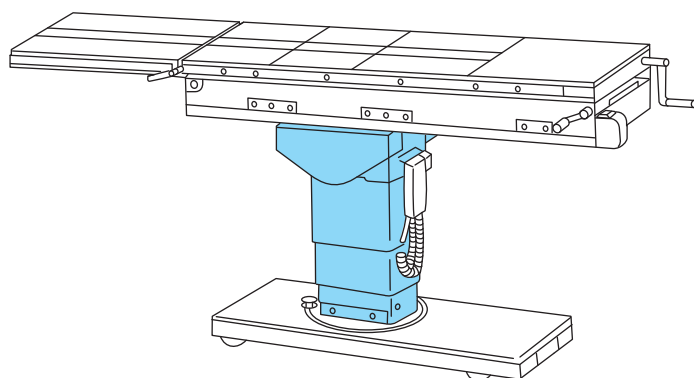
付録 -2 用語解説

横転

手術台のテーブルトップを頭側から見て左下がりまたは右下がりの位置に操作すること。

コラム

下図の青色の部分。

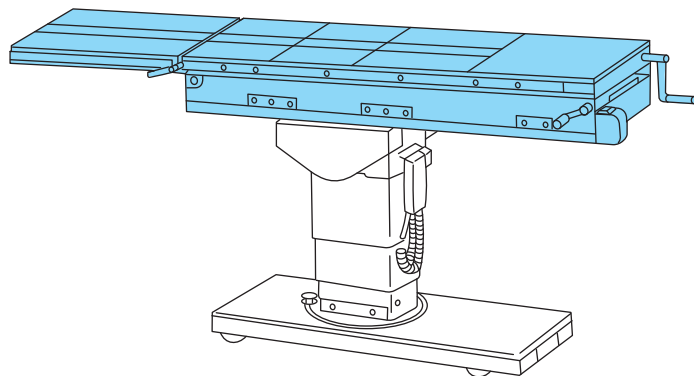


縦転

手術台のテーブルトップを頭上がりまたは頭下がりの位置に操作すること。

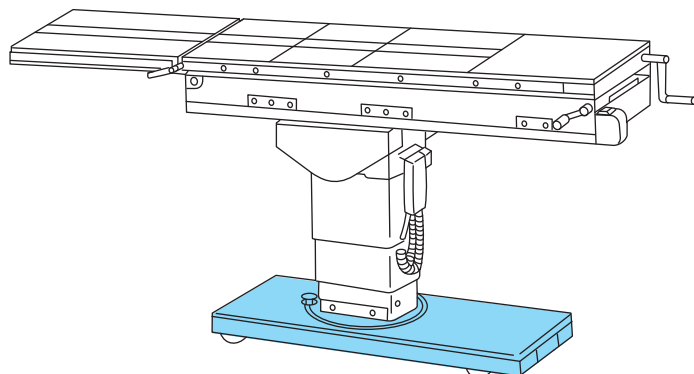
テーブルトップ

下図の青色の部分。



ベース

下図の青色の部分。



ミズホ株式会社

<https://www.mizuho.co.jp>

■ **本社** 〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-30-13
販売事業部 TEL 03-3815-3097 FAX 03-3813-5068

■ 営業拠点

北海道センター 〒 060-0807 札幌市北区北 7 条西 2-6 37 山京ビル 2F
TEL 011-716-4731 FAX 011-716-4803

東北センター 〒 980-0014 仙台市青葉区本町 1-11-2 SK 仙台ビル 2F
TEL 022-227-1688 FAX 022-227-1698

新潟センター 〒 951-8068 新潟市中央区上大川前通七番町 1230-7 ストークビル鏡橋 6F
TEL 025-229-5458 FAX 025-222-4684

北関東センター 〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-30-13
TEL 03-3815-3193 FAX 03-3815-1280

東海センター 〒 464-0075 名古屋市千種区内山 3-17-4 スズシン第 2 ビル 3F
TEL 052-732-7130 FAX 052-732-7131

関西センター 〒 550-0004 大阪市西区靱本町 1-10-24 三共本町ビル 7F
TEL 06-6444-3840 FAX 06-6444-3860

中国センター 〒 730-0029 広島市中区三川町 7-7 三川町パーキングビル 13F
TEL 082-241-8826 FAX 082-241-8836

九州センター 〒 812-0013 福岡市博多区博多駅東 3-1-1 ZENNO 筑紫通ビル 5F
TEL 092-431-5022 FAX 092-474-4483

■ 関東圏 販売網（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）

ミズホアーバン株式会社 〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-29-3
TEL 03-3811-0350 FAX 03-3811-1880

■ アフターサービスカスタマーセンター 〒 285-0808 千葉県佐倉市太田 2173-13

訪問修理受付 TEL 043-481-3367 FAX 043-481-3374
預り修理受付 TEL 043-481-3368 FAX 043-481-3375

■ ミズホショールーム 〒 285-0808 千葉県佐倉市太田 2173-13

○お問い合わせは営業担当までお願い致します。

■ 工場

千葉工場 〒 285-0808 千葉県佐倉市太田 2173-13
五泉工場 〒 959-1821 新潟県五泉市赤海 3631-14